

感謝満漏

堅谷 政男 著ありがとうの人

はじめに・・・・	
第 1 章 【白	【自分を語る】 堅谷 政男・・・・・・・・・・・11
私の生い立ち①	昭和11年3月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
私の生い立ち②	私の母・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
私の生い立ち③	母の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
私の生い立ち④	私の故郷、日々の暮らし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
私の生い立ち⑤	小学校低学年時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
私の生い立ち⑥	小学校高学年~中学校時代・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
私の生い立ち⑦	中学校時代 (昭和23~26年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
私の生い立ち⑧	中学時代後半 (昭和26年)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

2022年をどう生きるか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	令和3年を顧みる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	映画を観る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	お墓参り二人旅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	83歳の誕生日を迎えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	私の2019年の展望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	私の平成30年を省みる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	運転免許証の返納を考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	終活に思う。その2(お墓、エンディングノート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	終活に思う。その1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	満82歳になり、思うこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	会社の廃業から早2年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第3章 【私の近況報告】 かたや通信・小嶋正氏 『自分史』より・・・
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
177	175	173	171	169	167	164	163	162	160	159	158	155

「今ある目標を目指して」 堅谷 光(ひかり・孫)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「暗闇で待っていたお父さん」 堅谷(智巳(ともみ・次女)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「必要な言葉を必要なタイミングでくれる人」 会田 - 久美子 (長女) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「堅谷政男さんへのインタビュー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第4章 【堅谷政男・ご家族へのインタビュー】・・・・・・・・・	●政男のある日ある時③ ~私の趣味の功罪~・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	【小嶋正氏 『自分史』より】・・・・・・・・・・・・・・	見えない力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	孫の成長とわが老い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	長持ちの秘訣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
•	•	•	•	•	•	•	•	•	•
213	212	210	199	195	192	183	181	180	179

【編集後記】 編集者 方山 敏彦(オーズ合同会社)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	●政男のある日ある時④ ~すべての方々に感謝~・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「敦子の手記」 堅谷(敦子(妻)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「ありがとうの人」 堅谷 「誠(長男)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「おじいちゃんとけん玉」 堅谷(恵音(けいん・孫)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
• 228	• 224	• 220	• 218	• 215	• 214

●はじめに

族のために費やしてきた気がしていました。 たされていて、 は二歩下がりといった感じでした。自分という人間の中身は、ずっと長い間仕事で満 のに人の何倍もの努力が必要でした。無我夢中で、まるで砂利道を歩いているようで、 や通信」の一コーナーに連載していた「自分を語る」をまとめたものとなっております。 一生懸命働いているのに思うように前に進まず、足を取られて転んだり、一歩進んで 振り返れば、 ここに書き残したのは、「自分の人生の振り返り」です。主に、私的月刊報「かた 仕事に使われ、人のために働き、自分の気持ちを犠牲にし、会社や家 自分の人生は馬車馬のように仕事、仕事の一点張りで、 無能さを補う

なうちに出来るだけ書き残しておきたい。 てそれを自分で読み返し、自分をよく知り、自分をさらに創る。記憶と気持ちが健在 間がどう生きたか、何を感じ、考えた人間であったのかを文章にしておきたい。そし 会社を廃業し、現役を引退し、これまでの人生を心静かに振り返って、私という人 ません。

気と活力になりました。感謝しております。 ができました。そして、読者の方々に常々頂く励ましや温かい感想は、書き続ける勇 そんな思いで、拙い文章ながら、家族の助けを借りながら一生懸命書いてくること

向 それは何より、 そんな私は80歳を過ぎてなお自分を見つめ直し、謙虚に成長しようとしてきました。 少期より苦労」「独立精神、忍耐力がある」「物事に臨機応変に順応できる」「地味に コツコツ型」「自己犠牲精神があり、一人で行動しようとする」「意外と無駄遣いの傾 ニがある」 「自尊心が強い」 「見栄っ張り」 「いい加減で大雑把」 「器用貧乏」 などなど。 私を自己分析するとこういう人間です。「親との縁が薄い」「家庭的に恵まれず、幼 自分を生かしてくれたさまざまな出会いと世の中への感謝にほかなり

お客様方」そして、大切な大切な「家族」。私はこの人生、世の中と人に助けられて きました。 「出会ってくれた人々」「お世話になった人々」「かけがえのない仕事仲間」「大切な 私は、今の自分になりたくてなったのではなく、みんなにそして世の中に

助けられて生かされて、そうして今の自分にたどり着いたのだと思っています。

なに感謝しても足りません。この本は私の人生の振り返りではありますが、そんな一 に改めて気づかされ、驚き、感動しています。そして出会ってくださった皆様にどん つ一つの尊い出会いの『積み重なりの物語』です。 「自分の人生の振り返り」を通して、多くの出会い、多くの方々からの支えや助け

す。 の尊い存在に改めて気づかされることとなりました。 86歳になるまで幸せだったと思えるようなありがたい人生を送らせて頂いておりま 寂しくも孤独な田舎の少年が、たくさんの不思議な出会いに恵まれながら、今日 私自身のことを書いてきたつもりが、私に出会ってくださった方々お一人お一人

「感謝満遍」はそんな感謝、感謝の物語です。ご笑読頂ければ、この上なき幸いです。

第1章【自分を語る】

堅谷

政男

すと幸いです。たくさんのありがとう、そして出会いの数々を追体験してみましょう。 文ママとさせて頂いておりますこと、ご了承ください。 れている箇所もありますが、読者の方にも当時の雰囲気を感じ取ってもらうため、原 男の人生を振り返っております。文中には当時の社会情勢を踏まえた内容などが記さ まで『かたや通信』(第113~138号)に連載した「自分を語る」全26本分の 原稿を再編集し、収めたものです。 昭 生い立ちから学生時代、大工修業時代、上京、 本章は、 和初期から平成、そして令和を生きた堅谷政男86年の生涯をご照覧いただけま 2019(令和元)年10月10日から2022(令和4)年7月31日 結婚……と時系列に沿って、

堅谷政

|私の生い立ち①||昭和11年3月

26歳の若さで亡くなりました。 く日中戦争のため中国へ出兵しましたが、 長男と生まれました。翌年に弟が生まれたが病気のため半年ほどで死亡、父は間もな 私は、 昭和11年3月岩手県の片田舎の貧しい農家(小作人、のちに農地解放)の 病気のため間もなく退役。 村の診療所で

出されます。 度も何度も母を探し廻り、 てくれたことを思い出します。 母子が生き別れとなりました。母も大変辛い別れだったと後に何度も、涙ながらに語っ 残された若い母親と3歳の私、祖母と嫁である母とのいさかいが続き(親権の問題) 80年以上前の話です。 日中は近所の家々を訪ね廻った記憶がおぼろげながら思い 母と別れ祖母に育てられるようになった時、 夜中 に何

●私の生い立ち② 私の母

学校で校長をしていた母の兄が、縁談の話をまとめたということでした。母は幼い私 子をもらって帰ったことを思い出します。あとで分かったことは、隣村の農家で奥さ ず私の頭をなでるだけ。早く帰らないと祖母に叱られるからと帰るように促され、菓 た。しかし、しばらくして見つけられることになり、母は再婚の立場上、多くは語ら して台所の窓に顔が見えました。思わず声が出そうになりましたが、グッと堪えまし けました。 からでも母の姿を見たくて、3キロあまりある道を探し求めて、母が暮らす家を見つ と涙ながらに言われたことを思い出します。しかし、幼い私は母に会いたくて、遠く ます。「よそのお母さんになったのだから、会ってはいけない」と滾々(こんこん) いるよ」と教えてくれました。祖母は知っていても、会わせたくなかったのだと思い んが子供4人を残して亡くなり、再婚相手を探していたそうです。たまたま近くの小 母親と別れて1年が過ぎたころのある日、近所のおばさんが、「隣村にお母さんが 垣根の間から母の姿を探そうとしましたがなかなか見つからず、しばらく

が不憫でたまらなかったと思います。生みの親、育ての親それぞれが、子供の幸せを を陰ながら見守りたいという意図があったようですが、祖母にしてみれば子供(私)

願ってのこと。母は継母として、残してきた私の扱いに苦悩していたと思います。し

かし、私の母は強い人でした。

いません。

●私の生い立ち③ 母の言葉

聞くのだよ」でした。母との再会後は母、 母は別れ際よく言った言葉は、「我慢するのだよ」「おばあちゃんの言うことをよく 祖母との話を聞き入れ、 頻繁に会わなくて

も居場所が分かった安心感で心に落ち着きができたといえます。

ました。 それを町の市場に売りに行く日々でした。羊や豚の肥育など、細々と生計を立ててい そして、 間伐材の切り出し、木炭づくり)、山奥で炭焼き小屋を立て、窯を造って木炭づくり。 家族5人(祖父母・叔父・叔母・私)の暮らしは楽ではなく、冬の間は林業 数日間は雪山で生活(12月~3月)し、家に戻っては草鞋、 私は幼いながらも手伝いに明け暮れていたので、遊びのことはあまり覚えて 縄綯いをして (山で

ませんでした。 て行く時は、なんとなく楽しかったものです。しかし、自分からは立ち寄ることはし やがて小学校へ通学するようになり、通学路を少し遠廻りして、母の家の前を通っ たまたま通った時に、「寄っていきなさい」と母に言われたかったか

らです。

子のような献身的なふるまいが認められたのでしょう。後に3人の(異父)妹弟誕生 くれるようになりました。家族の方のやさしさと、母の努力によって継母としてわが にも温かく接してもらえるようになりました。寂しさも半減し、時には食事も誘って やがて母もその家の家族に認められ、私の存在も理解されるようになり、 並々ならぬ愛情を注いでの、言うに言われぬ母の忍耐に敬服しております。 家族の方 が多く、そういう村で私は育ちました。

●私の生い立ち④ 私の故郷、日々の暮らし

始発駅 海岸線漁港として、水産物の水揚げも豊富で住んでいる人たちも人情味あふれる人柄 海にもわりと近く、JR八戸線久慈駅は八戸線の終着駅で、第三セクター三陸鉄道の は山菜取り、 ど入ったところにあります。 私の故郷は、 (テレビドラマ・『あまちゃん』の舞台となった) でもあります。 秋には栗拾いやキノコ狩り、 岩手県久慈市小久慈町(市町村合併)という海岸から山奥へ6キロほ 農業・林業の部落で、 川遊び・魚釣りと自然に恵まれた地です。 その奥には北上山脈があ 風光明 媚な 春に

男であるため連れていくことは譲れなかったことを祖母は切々と語りました。 すぎてしまい、 たことが思い出されます。 小学校に上がるまでは、近所のガキ大将だった私は、 そのたびに祖母はこの家の跡取りとして、立派に育てたいと涙ながらに語って 竹ぼうきで追いかけられて家に入れてもらえないことが何回 母親との生き別れは、 母親の若い将来のため、 祖母の手伝いをしないで遊び 跡 かあ 幼い私 取 り長 りま

に一生懸命説明してくれたことで、その時の祖母の思いは幼いながらも、 鮮明に記憶

に残っています。

農産物を朝市(八の日市)で売ったり、叔父が農作業の合間に土建屋に勤めたりして、 がいも・サツマイモなどが主食で、他に夜なべ仕事で藁加工の草鞋・藁縄をつくり、 で、収入(お米)は全部を農協に持っていっていました。自分のところでは柊・粟・じゃ 5・6歳の頃から手伝っていたかと思います。田んぼや畑が3千坪ほどの小規模農家 してから学校に行きました。学校から帰ったら農作業を手伝い(農繫期はほとんど)、 私の手伝いは朝早く起きて、羊・鶏・豚など家畜のエサ(土手へ草刈り)の世話を

貧しい生活を支えてくれました。

変元気がいいですね」と先生から褒められた覚えがあります。その元気さで女の子を チビでしたが、一方で元気が良く活発であったため、出席をとる時の声が大きくて「大 順調な幼年期を送っていたかと思います。小学校の入学時は早生まれ(3月)で一番 く家のことを手伝い、野や山を駆け回り、たまに別れた母に会って、寂しさも消えた そうした暮らし向きでしたが、特に不平不満はありませんでした。無邪気で元気よ

●私の生い立ち⑤ 小学校低学年時代

た。 話をして良い関係が続き、この関係が後のわが人生の大きな分岐点になるとは思って 戦線が次第に北上し、東京では空襲激化によって小学校の集団疎開が行われていまし の人というだけで何となく憧れ、ワクワクしてその姉妹の同級生である妹と、学校へ 一緒に通うのを楽しみに思っていました。祖母もその家と野菜を分け合い、何かと世 学校生活もだいぶ慣れて、3年生になった昭和19年戦争はサイパン島玉砕、南方 ある日、 隣家に東京から一家4人、 姉妹が越してくる出来事がありました。 東京

く)を買っていたかと思います。好きな科目といえば、わずかに音楽(春の小川、お せんでした。 飛来するようになったため、避難訓練や灯火管制の毎日でしたが別段怖いとは思いま Ł いのに、すぐ「は〜い」と手を挙げるような目立ちたがり屋でみんなの顰蹙(ひんしゅ 4 いない出会いとなりました。 年生(昭和20年)になり東京・大阪で大空襲があり、岩手の田舎にもB29が 勉強の思い出は、 先生が「この問題わかる人」と言うと、 わかりもしな

び箱・鉄棒が楽しみでした。総じて頭を使うよりも、体を使うほうが得意だったとい 山の杉の子など)でとても懐かしいです。体育の時間は決まって、ドッチボ ール・跳

える低学年時代だったと思います。

象であったかと思います。 年か中止されていた祭りや盆踊りも復活し、抑えられていたエネルギーが爆発した印 中学など)、 苦労していたようです。教科書から離れた授業が行われ、これからの日本はどうなっ 放送を部落の地主の庭に大勢集まって一緒に放送を聴きました。よくわからないのに ていくかとか、民主主義社会の話など、そんな日々が続いて昭和21年を迎えました。 ところに黒ズミが塗られて(戦時中の教科書の思想変化のため)、その説明に先生も 涙したことが思い出されます。夏休みが終わって学校生活が始まると、教科書の至る 戦 昭 **|時中のさまざまな制限撤廃が進んだことで、日本の復興は早く(町村合併、** 和20年8月には広島、 部落にも活気が戻ってきたのが小学生の自分にも伝わってきました。 長崎 に原爆が投下され、 15日正午から天皇陛下の玉音 新制 何

●私の生い立ち⑥ 小学校高学年~中学校時代

備をしていました。この地方の農家の生計は農業だけでは立てられず、 行った記憶がありません。 出としてあります。一方で、6年生の修学旅行はどこかへ行ったと思いますが、私は ました。 櫓の上で何人かが歌うことになり、大人がみんな私に「歌ってみろ」とけしかけてき もので、部落ごとに日程をズラして毎晩のように続きました。そうした盆踊りの最中、 た覚えがあります。 てもらって駆り出され、地域の大人の人にやり方を教えてもらい、あれこれと走り回っ 多かったといえます。わが家でも手伝いに行く人がいないため、子どもの私で勘弁し るとすぐに北海道へ出稼ぎに行き、旧盆に一度帰ってまた北海道にというスタイルが 小学6年の夏休み(旧盆)には、盆踊りの準備に部落中が総出となって手伝いをし 櫓をつくったり、電気工事をしたり、万国旗を張ったりと3日間ほどかけて準 おだてに乗った私は、当時大流行だった「リンゴの唄」を歌ったことが思い 盆踊りは娯楽のないこの地方の最大のイベントで、それは盛大な 田植えが終わ

がたびたびありました。

は に関しては直線で川を渡れば15分ほど、通学路なら橋まで遠回りとなるので25分 1 い場所で校舎も新しく、グラウンドは野球ができる広々としたスペースが確保されて てギクシャクした雰囲気が続いていたと思います。 区の生徒、小久慈地区の生徒が一緒になった頃は何となく、敵対心みたいな感情があっ に久慈市)となり、長内中学校となった新校舎が小久慈地区に完成しました。長内地 たので、運動も勉強も気持ち良くできそうな気がしたことが思い出されます。 新 かかりました。 制中学となり、 授業時間に間に合わない時は、 市町村合併によって長内村と小久慈村が合併して「長内町」(後 靴を脱いで川を渡って登校したこと 学校は川の土手に面した環境 通学

意識し、頑張って勉強しないと周りについていけないと感じた時期だったと思います。 秀な子が多くいることに驚き、劣等感を抱いて反省しました。生まれて初めて自分を とがあげられます。 同時に孤独を抱いており、父母がいないことを強烈に感じるようになった頃でも 中学校に入学して変わったことは、卓球や野球などの運動を通じて友達ができたこ また、方々からたくさんの同級生が集まって一堂に会すると、優

思えば、青春時代の始まりだったのかもしれません。しかし、普段の私は元気よく早 あったため、悩み・甘え・悲しみ・寂しさに涙したことが思い出されます。今にして

台しかない卓球台を確保するためであり、今かいまかと友達が来るのを待っていまし

起きをし、家畜の世話を済ませ、誰よりも早く学校に行っていました。その目的は2

た。

がラケット、されど尊いラケットだったのです。

新制中学になってからは教育制度も変化し、町村合併による生徒数やクラス編成な

私の生い立ち⑦ 中学校時代 (昭和23~26年)

より、 ませんでした。この悔しさは70年以上過ぎた今でも忘れられない出来事です。たか とっては宝物であったため悲しみの日々でした。結局ラケットは、その後も見つかり ラケットを隠された)、卓球が出来なくなるということがありました。卓球そのもの かったです。いつも学校に早く行き、卓球台を確保しては友達が来るのを待ちました。 をすることを約束したうえで、祖母にラケットを買ってもらったときはとても嬉し のためラケットが買うことが出来ませんでした。そのため、夜なべで縄ないの手伝い して人気があり、 小学校の高学年あたりから卓球に興味を持ちました。長い冬の間の屋内スポーツと ところが卓球台をいつも先取りするため、先輩に嫌がらせを受けてしまい(卓球の 貧しい家計の中からどうにか工面して祖母に買ってもらったラケットは、私に 得意の一つだったので中学校に進んでも続けていましたが、 貧しさ

分の能力を知って複雑な思いから悩んだことがありました。しかし、その悩みは努力 中)という結果でした。自分でも頭が良いとは思ってはいませんでしたが、改めて自 われました。学年全体の順位が発表され、最後から2番目 ども大きく変わり、その一環として知能テスト(知能指数測定) (正確ではないが124人 なるものが一斉に行

を引き寄せてくれたような気もしました。

れ初めた覚えがあります。今考えると、 思い出します。 たのかもしれません。日に日に悩みが多くなって、夜に眠れないことがあったことを した)一つの転換期であったような気がします。 その頃は世の中の変化や環境の変化、何よりも精神的な目覚め(青春)の始まりだっ 自分の欠点である出しゃばりに気を付け、 あの頃が人生の (生まれて初めて自分を意識 勉強は予習・復習に力を入

す。 した。体育は万能で卓球・野球・テニス・水泳・マラソン大会では学年第4位になっ 学校生活は新しいこと・興味深いことで毎日が楽しく、3年間欠席はありませんで 英語・数学・理科を除けば、それなりに中の下ぐらいの成績だったかと思いま ・音楽・社会が少し良い程度で極めて平凡な生徒(本人は努力していた)で

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

> たこともありました。 て代打ではありましたが、まぐれでライト前ヒットを打ち、 いがあるため)、1・2年時は選手を辞退しましたが、3年生の時には郡大会に出場し 野球は放課後の練習ができないため(早く帰って農作業の手伝 勝利に貢献したのが良い

思い出です。

ため、 計の大きな助けになっていたと思われます。 家畜の世話・山菜取り・栗拾い・キノコ採りなどを励みました。貧しき農家であった で出かけることもありました。採れた物は農産物と共に、八の日市へ売りに行き、 家庭的には農繋期はもちろん、学校が終わったらなるべく早く帰り農作業を手伝い、 この大自然の恵みを求めて20キロ近くも山の奥まで(北上山脈) 1 日 が かり

た叔父の背中、 いました。反抗期の芽生えはあったものの、耐え忍んでいたことが思い出されます。 貧しい中でも、父親亡きあと母親とも別れた私を、後見人として黙々と支えてくれ 祖母の一生懸命な姿を見るにつけ、遊びたい気持ちを懸命にこらえて

私の生い立ち8 中学時代後半 (昭和26年)

談することもできないまま、 や修学旅行への参加は叶わないと思ってはいましたが、希望を捨てきれずに誰にも相 中学3年になると就職か進学かという進路の悩みに直面しました。貧乏のため進学 悶々とした日々が続いていました。

2時間 お喋り、時には手芸をしたり手紙を書いたりしており、この時間がとても大事だった 大変なことと思いきや、 車に乗って11時半には再び久慈駅へ。そこから顧客のところへ配達に向かい、 徒歩で約30分かけて久慈駅へ。そこから5時20分発の八戸線の一番列車に乗り、 育費などの捻出のために行商を始めていました。朝3時起きで朝食、弁当を用意して の注文を取り終わるのが午後3時頃。 れていました。 かけて青森県の鮫駅 (さめえき) に着くと、八戸港の海産物市場で品物を仕入 再婚した母は1女2男を出産。 約40キロはあろうかという荷物を背負い、9時20分発の帰りの汽 母が言うには往復4時間の汽車での移動は、 この繰り返しの毎日だったそうです。 その数年後には農作業を人の手に委ねて、 休憩、 さぞかし 仲間との

す。

なことではなかったと推察できます。 愛と絆をしっかり保ちつつも、そのバランスを維持するのは簡単なことではなく、優 とのこと。後妻という立場で、先妻の子供5人、再婚後の子供3人という大家族との しい夫をはじめ家族全員の理解によって、道が開けたと言えるでしょう。それは容易 母は常に争いごとが嫌いで、思いやりがあり、

忍耐強く、

行動力がある前向きで明るい人でした。

うに」とのことでした。数日後駅で落ちあい、一番列車で朝の弁当食べながら、 を託してくれました。「ゆっくりと話をしたいので、仕入れに行く汽車に同行するよ て母子水入らずの時間を過ごすことができて、大変うれしかったことが思い出されま ある時、母は、亡き前夫の元に一人残してきた私のことを心配し、私の友人に伝言 、 初め

ことにしました。そして、担任の先生に相談して、働きながら通える高校を探すこと を断念する決断をしました。しかし、高校受験は試験だけでも受けて実力を試したい とも思っていました。受験費用は母が出してくれることになり、受験勉強は継続する しばらく進路のことで迷っていた私でしたが、 祖母の立場も考えて修学旅行、

うれしかったです。 こうして母と色々と話すうちに悩みが少しずつ晴れていくように感じられたことが、 どこへでも行けるようになるからと母に励まされ、残念ではありましたが諦めました。 になりました。修学旅行(中尊寺、松島行き)については、将来自分の力でいつでも

らなくなってしまいました。 れるまで時間がかかるだろうとのことでしたので、悩んだ末に一度帰郷することにし 実社会への第一歩を踏み出しましたが、いざ職場に赴くと研修2日目から下痢が止ま したところ、当校より私を含む4人が採用されました。こうして心強く喜び勇んで、 県彦根市の紡績工場で定時制高校へ行けるところが見つかりました。近江絹糸に応募 分では技術者向きでないと思っていた私は、まずは高校へ行きたいという気持ちが強 大工の見習いのほうが良いという意見で、遠方へ行くことには反対していました。自 そして、残る大きな問題は就職のことでした。祖母は、「技術は身を助く」のだから、 祖母の反対を押し切って担任の先生と相談しては、いろいろ探してもらい、滋賀 診療所の先生が言うには環境の変化、食の変化などで慣

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

そ迷いなく祖母の意見に従って、近くの棟梁のところで大工見習いの道に邁進するこ このような苦い経験から、世の中の厳しさ、自分の弱さを思い知った私は、今度こ

とになりました。

33

実社会への第一 步 大工見習い (昭和26年6月)

もらいました。 らえないだろうかと(修業期間中は無給)祖母がお願いしてくれて、 梁のところで、酒飲みだが腕は良いという評判でした。祖母に連れられて挨拶とお願 進学の志を断念し、大工見習いという形で弟子入りした先は、近所で知り合いの棟 家庭の事情を話して本来5年の修行の期間を貧乏のため、 例外的に認めて 4年間にしても

場合は家が近いため夜は自宅へ帰れました。この条件で大工見習いがスタートしまし 雪の日、 概略としては、給与無し、お盆と年末に小遣い少々(1年目)。休みは月1回その他雨・ お盆年末年始、 道具一式支給、 食事三食付き、作業着などは支給され、 私の

た。

新築したのがこの師匠で、出来栄えや仕事ぶりが評価され、A君の父親がわが息子を ていました。二人は隣郡から来ており、 す でに2年先輩のA君と、 私と同い年で3か月先輩のB君の二人が住み込みで働い 話によれば2年先輩のA君の実家を数年前に

先輩

A君は真面目で大人しく無駄話をしない優しい人で頼もしかったです。

弟子にしてほしいと頼んだそうです。さらにそのことをB君の両親が知り、 てB君の弟子入りが決まったという話でした。 お願いし

基本的 骨組 約2時間近くのお酒と熱弁。最後は奥さんに促され寝室へ。酒好きが嫌だという感じ の仕 道具の手入れが何より大事で、仕事を始める前に整えて(刃物を研ぐ)おくこと、こ 事はその日のうちにノートして忘れないようにすることが大切だと語っていました。 匠がお酒も入った勢いもあったと思いますが、仕事を早く覚えるためにはその日 にと言われて、 ではあ りました。まずは邪魔にならないように、今日一日は大工さんの動きを見ているよう 昭和26年6月晴れて実社会の第1日目は朝6時に朝食をいただき、 「事は人の仕事を見て覚える(盗む)という言葉を使っていたのが印象的でした。 お加 りませんでしたが、私がなりたいタイプでもありませんでした。 な話から始まり、 工場)で50代の職人さん、弟子2人の紹介と挨拶、 一日中見ていたことを覚えています。その夜の食事を済ませると、師 私が進学希望だったことの是非、 自分の仕事自慢、 仕事場の説明 仕事場 人生論と などがあ (木材 の仕

35

B 君 は

事終了後の時間にして早く覚えるようにと教わりました。切れ端の片付けや掃除の毎 おっとりとしていて、少し茶目っ気なところがあり面白くて優しい人でした。この良 のに驚き、 ているのに気が付きました。 日でしたが、 い先輩に恵まれて、鉋・ノミ・鋸の使い方、刃物砥ぎなどの練習はお昼休み時間と仕 材木の名前もなかなか覚えられず、夜も眠れず劣等感を覚えた記憶があり 自分なりに努力しているのに、どう見ても自分の不器用さが目立ち始め 道具の名前を覚えることも、こんなに多くの種類がある

事の奥深さや広さを感じ、一人前になるのは10年かかると職人さんの誰かが話して ころがあったように思います。そのことを思い知らされた時期で、 般的な職業観として、誰にでもいつでもなれる職業だと、少し甘く考えていたと 知れば知るほど仕

いたのを思い出します。

このとき、「なるほど」とうなずけた瞬間でした。 最初の日に夜酒を飲みながら、人の仕事を見て(盗んで)覚えると言われていたのを 教科書があるわけでもなく、 誰かが手に取って教えてくれるわけでもなく、 師匠が

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

なことがわかり、感謝の気持ちが持てるようになりました。会話もできるようになり、 話もあまりありませんでしたが、大工見習いとして入門して初めて実社会のいろいろ 実感がしました。祖母もひと安心の様子で、それまで就職のことでギクシャクして会 れ、途中で嫌になることもなく、厳しくもそれに立ち向かう覚悟がそれとなくできた こうして悩みながらも半年が過ぎ、優しい二人の先輩に恵まれ、女将さんに励まさ

一つの成長だったような気がしました。

●大工修業 中期時代 (昭和27年)

あったように思います。 の時間を費やしました)の善し悪しが、仕上がりを左右する大工初期の大きな試練で 電動工具の普及してない時代で道具の手入れ(鉋、ノミなど刃物を研ぐ訓練にかなり は大工がやっていました。今は分業)、内装材の加工床材、 事が主流となります。来春の仕事の下準備が多くなり、建築途中の家の建具、家具(昔 東北岩手の冬は12月に入ると、寒さと雪で外の仕事は厳しくなるため、屋内の仕 壁材、天井材の鉋削

過言ではありません。思えば本当によくしていただいことに、感謝の念で一杯です。 が不器用な私を支えてくれたお陰で、修行初期を乗り越えることができたと言っても 事の修行だったと感じます。 直接覚えさせること、先輩のやることを見て覚えるというのが、一事が万事、この仕 り、大変辛かったことが思い出されます。とにかく同じことを何日も繰り返して体に 材木の鉋削りが何時間も続くと握力が無くなり、 幸いにも一人ではなく、同年代の優しい二人の同僚先輩 鉋を握る指が固まって開かなくな

の 山 を弟子が交代でつくったことが懐かしく思い出されます。 小屋を借りて自炊生活をすることになり、 まれて初めて、 恵まれた環境だったことによって、何一つ不満なく順調に1年が過ぎたころ、 .奥の農家の新築工事のため、泊まり込み(約5ヶ月)で出張することになり、生 長期間にわたって家を離れて生活することになりました。 4人分(師匠と3人の弟子)の食事の用意 農家の物置 隣郡

り組む姿勢が備わった大事な時期だったと思います。 月。この期間は仕事に集中できて、さまざまな技術を修得出来た時であり、仕事の取 て早く起き、朝食前の一仕事(1人は炊事当番)、またそれからの仕事に明け暮れた数ケ 将棋であり弟子3人によるリーグ戦が楽しかった思い出があります。 人里離れた部落で隣家もまばらで夜はテレビ・ラジオもなく、唯一の娯楽といえば 基本的に早く寝

だ」という一つの希望の光が見えてきたような感じがした貴重な一時期であったと思 らしさを痛感し、「一人前の大工になれるだろうか」という不安と、「一人前になるん 体験することができ、ただただ感心していました。そして、改めて建築の技術の素晴 Z の時 の新築工事は、 木造建築の仕事の初めから一軒の家が出来るまでをつぶさに

ます。 農家の仕事をして一段落したら出稼ぎに出る(北海道や関東地方)風習があり、 発展途上で、建築職人の需要が多かったので北海道へ行く大工が多かったように思い 宿泊施設) のルートが出来ていました。ゼネコンの下に手間賃仕事の請負師がいて、 います。こういう条件のそろった現場はいつもあるわけではなく、この地方は大工人 口が多い ため、 を持ち、 地元で安定的に仕事ができることは容易なことではなく、 仕事を手配するシステムが出来ていました。 特に当時は北海道が 飯場 農繋期には (仮設 一 種

ませんでしたが、 クワクした気分であったため、まるで旅行のようでした。中学の時は修学旅行に行け 乗り継いでの札幌までの道中(約20時間)は、見るものすべてがめずらしくて、ワ い わゆる出稼ぎです。見たことのない北海道、乗ったことのない船 昭和28年、 修行3年目の5月、生まれて初めて北海道へ行くことになりました。 修学旅行に行っている感じがして楽しかった覚えがあります。 (青函連絡船)

ンクリートの型枠をつくり、現場で鉄筋の両側に型枠を組み、コンクリートの圧力に

そこでの仕事は木造建築でなく、コンクリート建築の型枠工事でした。

作業場でコ

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

たので、一息つける時期でした。 りました。その当時コンクリート工事は初めての経験であり、道具の手入れも少なかっ 耐えられるサポート工事でしたが、技術的には木造建築より易しく単純な作業でもあ

41

終期時代 (昭和28~29年)

催する技術講習会や勉強会などに参加し、仕事らしい仕事は師匠の仕事の具合で建具、 ることになります。 で仕事をして(失業保険の取得期間)、雪と寒さのために仕事が出来なくなり帰郷す の仕事などでした。 タンス作りなどに取り組み、 北海道の仕事は基本的に大規模な仕事が多く、型枠工事のほか木造の学校、体育館 札幌を起点として旭川や小樽などへ出張し、 12~翌年3月は失業保険をもらえるため、 精密木工技術の習得に励みました。 約6ヶ月間を北海道 この期間は組合が主

たこともあり、 い定時制高校へ来る生徒は、 の期間 いろいろな事情を抱えた仲間たちでした。各市町村からこの地域で一校しかな 友達づくりが優先の時期でした。 (12月~翌年3月) は比較的、 夜の時間を内緒で定時制高校へ通うことにしました。そこで出会った 熱心な人が多く感心した覚えがあります。 行動の制約がゆるく近所の大工に誘われ 私は勉強とい

授業も和やかで、特に体育の時間が楽しかったです。卓球・柔道・バレーなどのク

ではないかと、

劣等感を感じた覚えがあります。

東京へ就職し、離れ離れになって寂しくなり私も東京へ行きたいという意識が芽生え 理解者として支えてくれた恩人(2018年死去)でした。 よりの収穫であり、私のかけがえのない親友として65年間にわたって良き私生活の 親友〇君に出会いました。この出会いはわずかな時間を定時制高校に通ったことの何 ラブもありました。私は中学から卓球をやっていたので、卓球クラブに入って無二の 彼は定時制高校を卒業後

俗に言う、腕の善し悪しだといえます。ここからは持って生まれた天性のようなもの も仕事は遅いけれど、仕事に早く取りかかり、休憩時間も休まずに時間を何とか追い つく努力をしましたが、それでも技術の差(仕上がり、精度など)は出るものです。 修業も4年目となると、不器用ながらも技術の修得が確実に増しました。 先輩 より

た時期であったように思います。

ろと再考し始めた時期でもありました。同じ建築業界に入るのなら、現場で働くより 一人前の大工になるのは大変なことだと改めて痛感し、自分の将来についていろい

も建築士のほうが自分には向いているのではないかと考えるようにもなりました。

43

ていましたが、大変貴重な言葉であったことがここで思い出されました。 すれば、 大工の修行に入る時、祖母が言った言葉が思い出されます。「技術を身につけさえ 後は何でもできる」、これまで3年間無我夢中で修業に打ち込んでいて忘れ

信を何百回、何千回も繰り返さなければ一人前にはなれないだろうなと、つくづく思っ 会が増しました。いつしか自信が生まれ、大工になったかのような錯覚を覚えて、 てもいました。 しくて毎日が生き生きとしていました。しかしこれは仕事の一部分の自信で、この自 こうして長いようで短い修業期間の最後の年は木造新築工事が続き、技術修得の機 嬉

完成させられて初めて、一人前と言えると私は思いました。 トの寸法の出し方、材木の加工の墨付けなどを経て、ようやく一軒家を自分で建て、 多種多様な道具を使いこなし、何千もの部材の名称、材木の名前、骨組み部材のカッ

らはそれ相応の賃金を頂けますという証のようなものと捉えて、決して一人前ではな 終わったことを告げられました。この4年間は基礎的技術の一つの区切りで、これか 昭 和30年5月、 師匠に祖母と二人で来るように呼ばれ、 約束通り4年間の修行が

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

く、ここから先は自分自身で修業して切り開いていき一人前になるように、という趣

に感謝の気持ちで一杯でした。恵まれた環境で4年間優しく見守り、旨の言葉を頂いたように思います。

指導してくれた師匠、支えてくれた先輩たち

運命の東京、 そして大阪 (昭和30年4月~37年)

や泊まるところの見当がつかず、友人〇君も社員寮だったので世話になるのは無理で 新聞広告や建築雑誌で資料収集をし、上京の準備を密かに進めたものの、昼間の仕事 ました。 り、 ました。修業期間の後半には手先の不器用さを考え、大工の道より建築士の資格をと 1年前に友人0君が上京したときより、自分も東京へ行きたいという願望が生まれ 現場監督になることのほうが自分には向いているのではないかと思うようになり 定時制高校に進学してから2級建築士の養成学校を目指そうと方向転換し、

が世話をしたことがあり、年賀状の住所に連絡をしたら快く承諾いただきました。 そこで思いついたのは戦時中、隣家に疎開していた4人家族のSさんでした。祖母

1 Ō 年前 この祖母の親切が報われ、大変うれしく助かりました。

の修業が終われば、少しは家族のために尽くすはずだったのに、自分勝手に東京へ行 祖母は東京へ行くとは思ってもいなかったようで、涙を流し悲しみました。 4年間 決めました。

く決断をするには私も大変悩みましたが、若さと無鉄砲さゆえの決断でした。

になったのです。 てもらい、 修業期間中の蓄えがいくらもなく、当面の生活費を親戚に借りるため祖母に同行し 5万円を貸して頂きました。そして4月末、慌ただしく上京を果たすこと 後に考えてみても、 初めての東京行きへの行動は我ながら感心して

います。

宿泊 も1週間が10日となりこれ以上の迷惑はかけられませんでした。大工仕事の場合、 しかし、住み込みで働けて学校へ行ける、そんな職場は簡単には見つからず、居候 の問題で学校は行けそうになく断念し、とりあえず新聞配達の仕事をすることに

夕食付きで職場としては申し分なく、店員7人中5人は学生であり、それぞれが懸命 1店舗を経営していました。とても面倒見が良く田舎者の私に優しく目をかけてくれ に勉学に励む姿が参考にもなりました。店主家族も両親と姉妹の4人家族で、他にも の配達をして、その後は学校(工学院大学専修学校建築科)で学ぶ日々でした。 早朝3時より朝刊を配達し、昼間は集金などを行って夕方3時から5時までは夕刊 朝食

たので、 寂しくなく働く意欲が湧いて、 一生懸命に勉学に励んだことが懐かしく思い

出されます。

難しさが身に染みた時期でした。 かかり、遅刻が続いて学校での勉強は暗礁に乗り上げてしまいました。改めて両立の 工仕事に戻ることにしました。しかし、金銭問題は解決しても、今度は通学に時間が な職場が見つからずに焦っていた頃、岩手の知り合いから大工仕事の情報が入り、 に借りたお金の返済は、新聞配達ではとてもできないことは分かっていました。適当 居心地が良く、とりあえずのつもりが1年近くとなり、祖母への仕送りや上京の際

度学校に通うチャンスを探していましたが、ようやくその時が訪れました。 済に勤しみました。3年間お世話になり、夢半ばであることが常に頭にあり、 場内の木工事の仕事(江戸川区)に従事しました。学校は1年で中退し、仕送りと返 昭 ·和31年3月、大工仕事に戻って中堅ゼネコンの寮に入所しました。 大手製紙工

旋で地域の工務店と下宿屋を紹介してもらいました。日本各地から集まった仲間たち 昭 -和34年3月、大阪修成工業専修学校(2級建築士養成校)に入学し、学校の斡

と仕事 呈しました。 結果は、 ・勉強を学ぶこと2年、 学科は合格しましたが実技(製図)は不合格となり、ここでも不器用さが露 翌年の実技を再受験しようとしましたが、祖母の急病のために受験でき 昭和36年に無事に卒業しました。2級建築士の受験

ず、 た。 無事に就職もできました。この出会いは、後にいろいろの出会いを呼び込み、私にとっ ことになりました。北区上中里の4畳半のアパート(堅谷工務店の原点)を借りまし 昭和37年3月、義妹が看護学校入学のため上京し、私も手助けのため東京に行く 地元不動産屋の社長さんが親切な方で、荒川区の建設会社を紹介してくれたため 振出しに戻って建築士の夢は叶わないままでした。

ては忘れられない再スタートになりました。

●敦子との出会い (昭和38年~)

たことが思い出されます。休みの日には、遠く千葉の知り合いの家を訪ねる冒険の日々 バイクを購入しました。月賦払いでしたが、生まれて初めて購入できて大変うれしかっ 同僚にも恵まれて、仕事や生活の範囲、交友関係も次第に広がり、同僚の紹介で原付 荒川区の建設会社に就職して1年が経過し、仕事にも自炊生活にも慣れてきました。

でした。

は建築工事が大変忙しい時期でした。倒産した会社の職人さんが独立するので手伝っ きい仕事や小さい仕事は途切れることなく続き、オリンピックを翌年に控え、東京で 事を完成させるために残った監督と職人数人が仕事を継続することになりました。大 てほしいと言われ、しばらく手伝うことになりました。 しかし、 同年8月に突然会社が倒産して一時的に行き場を失ったものの、残りの仕

初めて先頭として立つことになりました。とにかく初めてのことであり、女店主との ある日、 倒産した会社の元監督より連絡があり、コーヒー店の改修工事を頼まれて

成させることが出来ました。店主は大変喜び、会食に招待してくれました(店主は料 意思疎通を大切にして、一生懸命に仕事しました。休みなく働き、1ヶ月あまりで完 居酒屋の店主でもありました)。私の身の上話を熱心に聞いてもらい、 この出会

いが後の第二の人生の出発点でもあったように思います。

戦苦闘 た。グループの代表に年配の方がいましたが、私が推挙されることになりました。 は後に応援に来るということで寄せ集めのグループを結成して仕事をスタートしまし 事 トリフティング会場の床張りの突貫工事 12、3人集めてほしいとのことでした。知り合いの大工10人を確保し、 巷では東海道新幹線が営業を開始し、第18回東京オリンピック大会が行われ、日 も順調で、 昭 「和39年の初めに自動2輪の免許を取得し、オートバイに買い替えました。 の末に工事は無事完了し、「人の和の大切さ」を改めて知ることになりました。 そんな時に大手ゼネコンの下請けからの依頼でオリンピック、ウェイ (手間請負)の誘いがありました。 そのほか 大工を 悪

マラソン競技で、裸足で優勝したエチオピアのアベベ選手、そして残念ながら第3位

本人の大活躍で金メダル16個を獲得する活躍に沸いていました。印象的だったのは

ルで倒れこんだ姿には、人々の感動を誘ったことが思い出されます。 という結果でしたが日本の円谷幸喜選手でした。日本人の期待を背負い、 最後にゴー

合ってくれて購入することができました。これが、堅谷工務店の事実上の創業だと思っ いたオートバイ屋さんに軽トラックを購入したいと相談したところ、メーカーと掛け ことになりました。昭和40年早々には必要に迫られて、車のことでお世話になって 事の時に知り合った大工2人が近くのアパートに越してきたので、一緒に仕事をする 1 0月には念願の普通免許を取得し、仕事も順調に進んでオリンピックの床張り工

改めていろいろと考えましたが、結婚ではなくお見合いなのだと意を決してお願いを 出ました。 しました。4月の初めにバイク屋さんの一室で初めて顔を合わせた時には、二人とも 日返事をすることにしました。28歳にして今までそうしたことを考えたことなく、 つながりが増しました。親密な関係が生まれたある日、店主夫婦よりお見合いの話が こうして2年半の間に原付バイク、自動2輪そして軽トラックとバイク屋さんとの 相手は店主の奥さんの妹とのこと。一瞬、戸惑ってしまい即答できず、後

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

家を訪ねてご家族にお会いし、温かいもてなしを受けることになり、家族の温かさを 翌日お付き合いを申し入れました。後日、お互いにお付き合いを了承し、 きく丈夫そうで、おしとやかで優しい雰囲気の方で安心しました。私は大変気に入り、 すでにお互いの情報を持っていたので、この時は容姿の確認に留まりました。体も大 痛感しました。孤独に過ごした過去の育ちをかみしめ、この出会いを導いてくれた義 口数は少なく、店主夫婦を介しての会話は二人にとっては好都合でした。それぞれが 栃木市の実

兄夫妻に感謝の念で一杯でした。

53

●結婚、そして新たな生活 (昭和40年~)

家族の意向で、 ました。 が過ぎてしまいました。 事の都合もあり、 のデパート巡りや映画鑑賞、食事と慣れないながらもデートしただけで、お互いに仕 の私でしたが、必死になってお付き合いを願う一心でした。東京で2回ほど銀座周辺 でした。何一つ整っていない田舎者で、 話すということもなく、家族の皆さんにいかに自分を知ってもらうかという思いだけ いを新たにしました。郷里岩手では、祖母が病身のために身内の参加は叶わず、少し し込みをすることになりました。承諾をいただき、大変うれしかったことが思い出さ 彼女とお付き合いを始めて、栃木の実家に数回お邪魔をしました。特に二人だけで 日程を調整し、 牧師の司会のもと、 日本キリスト教会・栃木教会で家族と大勢の教会員の参列をいただき 遠距離交際だったので頻繁に会うことが出来ないまま、 11月3日に婚約式を挙げることが決まりました。 義兄夫妻が心配して区切りをつけるために、正式に婚約 聖書の交換と婚約指輪の交換により、 家無し・金なし・学なしの文字どおり裸一貫 結婚に向けての誓 半年あまり 彼女とご

寂しくもありました。

行いました。 場作り・式場・披露宴は、同じ一室で結婚式を挙げ、テーブルを並べ替えて披露宴を 野川会館の一室において、総勢22人で結婚式を挙げました。 ができませんでした。 なりました。 明けて昭和41年1月12日は結婚式の予定でしたが、祖母の病気が急変して亡く 育ての親として、 妻のキリスト教信仰に伴い、 悲しみのなかでしたが、 私の結婚の姿を見てほしかったし、 牧師の司式で結婚式を挙げた時は、 日取りを1月26日に変更し、 お金がなかったので会 恩返しもすること 北区滝

家族の心配に何としても報いたい、そして幸せになることだと固く誓った瞬間でした。 その時強く思ったことは、この不安定な状況の私にかけた彼女の気持ち、ご両親や

29歳でした。

そのことは折に触れて思い浮かべ、その都度感謝をしています。

うように取れず、 結婚に伴い、 新婚生活がスタートしました。彼女の職場である幼稚園の卒園が迫り、 4帖半をもう一部屋借りました。新婚旅行は後に行くことにしてもら 4月末まで栃木県の小山まで通勤することになったのも、 今では良 休みが思

い思い出となっています。

たのか、今でも不思議な思いがします。 界隈で大小の仕事に恵まれたのを懐かしく思います。 ンの経営に乗り出し、その改装工事を担うことになりました。夜間の徹夜仕事できち んと片付けたことが評価され、港区田町の不動産会社に紹介されることになり、 仕 事 のほうも、以前コーヒーショップの仕事をさせてもらった大野女史がレストラ あれは一体何という出来事だっ 田町

何かと面倒見てくれていたので、あれもこれも私どもの味方となりました。行く末を をさせてしまい、本当に申し訳なかったと思います。幸いにも妻の姉が近くにいて、 人さんに恵まれ、お客様の立場で情熱的に仕事ができたような気がしています。一方 した。採算の感覚は二の次でした。何よりも、一緒に仕事をしてくれた大工さん、職 介いただいた方に恥じないよう、自分の出来る精一杯の仕事をすることを大事にしま て10年、田舎者に仕事を任せてくれることにただただ感謝の念で一杯でした。ご紹 それからというもの、次から次へと仕事の依頼が舞い込みました。岩手から上京し 朝早くから夜遅くまで仕事に追われ、楽しい新婚生活のはずの妻には寂しい思い

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

見守ってくれたような、まるで夢でも見ているかのような、 わが人生の最大のスター

トとなりました。

ありました。分からない世の中をみんなに教えられ、みんなに手を引かれつつ、一歩 出会いに恵まれ、苦労らしい苦労もせずにこんなに恵まれていいのかという戸惑いも 命だと思って仕事をしていたように思います。世の中の時勢に恵まれて、温かい人の だお客様を信じ、その人の要望に応えることだけに全力を注ぐのが、その頃の私の使 歩を踏みしめていくことが大事だと感じた、輝かしい希望の出発となりました。 仕事に関しては、 誰か相談する人がいるわけでもなく、孤独に耐えていました。 た

最大の転換期、 長女誕生 (昭和41~42年)

多くの職人さんを紹介してくれて、あっという間に創業が叶うというそんな恵まれた 想像以上の仕事をさせて頂くことができ、義兄が商売柄(オートバイ、 たしていました。仕事においては大野女史が田町の大和不動産を紹介してくださり、 私事においても仕事においても、急展開に戸惑いながらも、いつの間にか独立を果 自転車販売)

出発でした。

宅を創る、というその大きな使命と責任を背負うことでもあり、いっそう身の引き締 うれしさ百倍でした。それと同時に、何もない土地に何十年も快適な生活が送れる住 続くのかと思うほどでした。昭和26年に始まった大工見習いから足かけ17年間、 て木造新築工事のお話を頂き、4月には長女が誕生し、どこまでこの恵まれた状況が ような1年が瞬く間に過ぎました。翌年の昭和42年3月には、大野女史の紹介によっ 一人前の大工になれるか・なれないかはこの時にかかっていると思っていましたので、 思えば、昭和41年はわが人生において最大の転換期でした。まるで夢を見ている

まる思いでした。

手がけ らないが、 社にとっての大切なご縁の始まりとなりました。大野女史は馴染みのお客さんの一人 ランを開くことになったわけなのですが、その改修工事をご依頼頂いたことが、わが 相愛となり、 う若い記者たちが絶えなかったそうです。大野女史はその常連さんだったある記者と り、その店には「おふくろの味」と、面倒見の良い肝っ玉母さんとして大野女史を慕 まりでした。 版局長)の関係は同氏の地方支局での勤務時代、大野女史が営んでいた小料理屋が始 であった小嶋正氏に、「家を建てるのは男一生の大事業だから、よく念には念を入れ、 大野女史と小嶋正氏(当時、朝日新聞社新聞記者。後に朝日ジャーナル編集長、 そこから、小嶋氏に自分が携わった家を2軒案内させて頂く機会につながりま その出会いについて、後に小嶋氏は自分史の中で「造作を見学しても何もわか た家を見せてもらいなさい」と助言し、 私の関心は堅谷さんを迎える家族の反応にあった。半年以上も前に完工し めでたく結婚しました。そしてご主人の東京転勤を機に上京し、レスト お店には他社の記者も盛んに出入りし、さながら「夜の支局」の感があ 小嶋氏と私を引き合わせてくださいま 出

た家というのに、どこの家族にも笑顔で迎えられ歓迎される様子、紹介者大野女史の から公私共に45年間あれこれと些細事まで面倒見てくれたことが証明している」と 人を見る目の信頼性、 私は安心してこの人にすべてを任そうと心を決めていた。 あれ

記しています。

間がほしかったことが思い出されます。 社分譲地)という悪条件のため、現場に3畳の物置きを立てて寝泊まり(自炊生活) 立区より約45キロ離れた(走行時間約2時間半)千葉県千葉市小倉台 見積書の作成(妻に手伝ってもらって助かりました)等々。続いて確認申請、そして を味わう余裕がなかった時期でもありました。打ち合わせから設計図の決定、夜には 5月着工、 昭 和42年という年は、 6月18日には棟上げ式の工程で、工事は順調に進行しました。 棟梁兼大工兼賄い婦としての奮闘の日々。とにかく必死で、切実に寝る時 長女の誕生でうれしさ一杯ながらも、 仕事に追われて喜び (住宅供給公 現場は足

重に進める必要がありました。そのため緊張感が抜けず、妻のこと子供のことを忘れ 現場仕事 (建築工事)は、 特にわが堅谷工務店では初の戸建住宅建築とあって、

になりました。日中は何とか寂しさは紛れましたが、夜は荒野の一軒家にいるような こり現れ、いつの間にか住み着いたので、「ジョン」と命名して朝夕と散歩するよう て、仕事に没頭するしかありませんでした。そんなある日、現場に一匹の子犬がひょっ

孤独感で、

この子犬が何となく頼りになっていたような気がします。

にいつの間にか現場の一員となったジョンも一役果たしてくれたことも、忘れられな 仮の板張りをし、小嶋さんのご家族4人で一晩のキャンプをしてもらったこと、 弁当で祝ってくれました。お子さんが夏休みに入った8月には、工事進行中の現場に い楽しい思い出となりました。 そして迎えた6月18日の上棟式。朝早くからの大勢の大工、とび職の手伝いのも 無事に上棟することができました。施主の小嶋氏は尾頭つきの鯛が入った仕出 、そこ

●俺は棟梁になったのだ (昭和42~44年)

造り」は、 ました。 に家作りを任せてくれたお客様の喜ぶ顔を見て、涙が出そうな気がした瞬間でもあり 違いなく収まり、 いう誇りと、自信が芽生え一回り大きくなったような喜びを抱きました。そして、 て棟梁として最初の大きな役割を果たしました。何百本という部材の組み合わせも間 昭和42年4月に着工してから2ヶ月間、 後にわが社のスローガンとなった、「建てる人、創る人が共に喜び合える家 この時の思いから浮かんだ言葉です。上棟式の翌朝より、立ち上がった建 晴れて自分の中では「俺は棟梁(一人前の大工)になったのだ」と 無事に上棟式を迎えることができ、初め 私

くれて工事の進行も滞りなく完成に邁進できました。施主さん家族の現場訪問や打合 大工二人の通勤応援に加え、 物を四方から眺めると、輝いて見えたような気がしました。 上棟式より約2ヶ月は、 付帯工事の職人さんも16業種に及びましたが、 8月10日の完成を目指して日夜奮闘しました。東京から 現場に一人泊まってくれたので4人体制で急ピッチで進 新米の棟梁に協力して

定通り完成して引き渡しを行い、18日に引っ越しが決定。現場の人気者であったジョ さが増す日々も苦にもせず、懸命に情熱を傾け続けました。この家も8月10日に予 せ、 ンも引き続き飼って頂くことになり、大変うれしく感激したことが思い出されます。 引き渡しの折には、ご主人より「立派な家を建てて頂き、ありがとうございました。 次の仕事の依頼があり現場を他人に委ねることも多々ありました。しかし、忙し 職方さんとの打ち合わせも多くなり、毎日が慌ただしく過ぎていきました。その

も気を配り、施主様に後悔させないお付き合いを心がけ続けてきました。 た作品であり、 家族全員が感謝しています」と労いの言葉を頂きました。この建物は私の人生をかけ 大野女史との偶然の出会いから始まった人と人のつながりが、わが人生を支え育て 子供のようなものです。完成後は、 耐久消費財としてメンテナンスに

からの人生(仕事)の基本として定め、努力しようと決意した時でした。 てくれたことに感謝の念で一杯でした。 この好意、感謝の心を忘れることなく、これ

ていた妻に感謝の念で一杯でした。また人生始まって以来の大事出産ということに、 長 い出張仕事(小嶋邸)から解放され、久しく家庭生活(4月長女が誕生)を任せ

になっていることに気づき、改めて世間知らずだったことを痛感すると同時に、感謝 義姉や岩瀬家をはじめ、たくさんの方々にお世話になりました。多くの方々にお世話

感謝の時期でした。

荒川を渡り、 速応募すると運よく抽選に当たり、大変うれしかったことが思い出されます。 ことを知りました。空き家抽選は倍率が高くて当たらないだろうと思いながらも、早 その地域の様子や情報が把握でき、大きな都営住宅団地があって空き家募集中である 先輩仲間が足立区に工務店を設立し、仕事の応援で足立に行くようになりました。 田んぼや畑の多い田舎のようなところでしたが、しばらく通っていると

返ってみても不思議です。誰か グだったので、この一連の幸運の流れは単なる「運」ということだろうかと、今振り 4畳半2間の生活も長女の誕生により大きく変化し、いろいろ悩んでいたタイミン (神?)が、どこかで見ていて後押しをしてくれたの

でしょうか。

せんでした。

●第二の故郷、長男誕生 (昭和43~45年)

て見聞い 店の紹介で材木屋さんとも知り合い、そこに出入りする大工さんとも情報交換ができ を思えば天国のような思いでした。住居が変わると仕事にも変化が生まれ、 ました。 昭 「和43年早々に、空き家抽選で当選した都営足立上沼田団地14号館に引っ越し が広がりました。 5階2DKエレベーターなしの物件でしたが、 仕事の展望が開けたような気がして、何となくワクワクと胸 4畳半2間に住んでいたこと 先輩工務

がときめいた頃でした。

大々的 もともとこの地域は農地・緑地が多くあり、環状道路の工事や土地区画整理事業が に行われている地でした。後にわが人生、第二の故郷となるとは思ってもいま

ず、 ててほしいと伝えられました。少しためらいましたが叔父の頼みを断るわけにもいか 4 とりあえずわが家2DKの団地に同居することになりました。一人の少年を預か 月になって岩手の実家(叔父の相続人)より電話があり、 次男義則君を大工に育

父の家庭 り育成するという重責への認識が十分に出来ていなかったことが悔やまれますが、 の事情、 私が育った時代の叔父からの援助などを考慮して、 出来るだけ役に 叔

立てればと思い、

引き受けることにしました。

3 た。 大きく貢献して頂きました。 め、 紹介があり、 るような恩恵に感謝するばかりでした。 仕 その中から数人紹介してもらい大変助かりました。その職人さんのうち二人は 職人さんが不足しましたが、 事 40年もの間わが堅谷工務店に勤務してくれて、堅谷工務店の51年の歴史に も順調に推移し、 地元鹿浜の同業者からも紹介があったりして、 1年前に新築工事をさせて頂いた小嶋様より新築工事のご たくさんの節目ごとに素晴らしい出会いがあり、 義兄の店のお客に職人さんの出入りが多かったた 多忙な日々が続きまし あふれ

紹介、 ビルが完成。日本の高層化建築技術の進歩が示された年でもありました。 たくスタートの年となりました。またこの年の4月には日本初の超高層ビル、霞が関 先輩工務店との連携も順調に進み、地元企業との交流や信用金庫との取引、 下職業者も固定しつつあった時期で建築業者としての体制が整い、 大きく羽ば 仕事の

くさんの人々の支えがあったからだと痛感しました。

その頃、二人の子供の世話に忙しい妻のもとには、

来てくれており大変助かりました。

団地では、ご近所の方々が何かとお世話してくだ

北区田端に住む義姉が手伝いに

とに鑑み、「誠」と命名しました。 明 けて昭和44年2月に長男が誕生。 仕事における独立の初心が「誠実」だったこ

者 1、 るようになりました。こうしていつの間にか協力業者も増え、私の管理能力不足を補 入りするようになり、大小の工事を受注し、鉄骨造の下請け工事もこの頃より手がけ 上り坂で勢いに乗っている状態でした。 てくれました。忙しさのなかにあって、 の効率化、 しました。 千葉市 工務店としての売上や利益も上がり、先行きの展望も開かれつつあり、まさに、 奥さんの知り合い1、ご近所さん1)、千葉市小倉台や千城台に1年近く滞在 小嶋様 当初と違って工程計画の作成や建築技術の修得向上、同じエリアの現場で 高速道路の開通、 (戸建て新築工事のお客様)より新築工事3軒の紹介が続き 日本経済の発展と地域の活性化などの諸条件に恵まれま 従業員も常勤3人を含む5人の大工さんが出 冷静な判断・決断が出来たのは、こうしたた (新聞記

67

した。私が仕事に没頭するあまり家庭生活、家族との憩いの時間が取れなかったこと 簿の記帳・見積書の作成などの協力を惜しまず、私の良き理解者として支えてくれま さって感謝するばかりの毎日でした。妻は文句も言わず、子育てや家事のかたわら帳 の最中で恵まれた時勢でした。

ました。

|堅谷工務店の設立、次女誕生 (昭和45~47年)

借金を背負うことになりました。一方で、大きな希望と不安が渦巻いた時期でもあり 新築を決心し、 は狭さを感じるようになりました。そして熟慮の結果、土地の購入と住宅兼事務所の つながり、 昭和 昭和45年を迎え、住居も家族4人と住込み従業員1人の5人で、2DK 44年後半頃より、地元(足立)の地主の方たちとの付き合いが仕事の紹介に 下職協力業者の仕事の紹介もあり、 信用金庫に借入を相談したところ了承されて、 仕事量が一段と多くなりました。 生まれて初めて大きな の団 地で

業の大きな発展を紹介する展示に驚きながら、暑さのなか何時間も並んで見学し、 かったことが思い出されます。 8 月 の年の3月には、日本万国博覧会が大阪で開幕。 た従業員6人と家族4人の総勢10人で行ってきました。 この年の日本経済のGNPは世界第2位と発展途上 従業員の慰労と家族旅行も兼ね 日本経済、 世界産 楽

者だろう、恵まれすぎではないかと感じるほど感謝の念で一杯でした。 ろすことになりました。幼少期・少年期の辛さを味わった私からすれば何という幸せ で大工の修業を終え、早々に上京して以来13年、 昭和46年に、 区画整理中の一画だった40坪を取得しました。昭和30年に岩手 第二の故郷としてこの地に根を下

場・材木置き場を構え、建築業としての形態を整えることが出来ました。 り、 お客様の仕事の合間にわが家の工事を進めていたため、完成は昭和47年4月とな 5月に新居に引っ越しました。4LDKの住居部分に、事務所付き一部鉄骨作業

でいたら、会社の設立に至ったという感じでした。 スタートをいたしました。 同 .時に個人経営から法人「有限会社堅谷工務店」として、昭和47年1月に新たな 何もかもが初めてのことで、ただただ無我夢中で取り組ん

と思います。何より経営者としての自覚が未熟で、認識が不十分でした。この頃は、 節目とし、 ことは幸運だったとしか言いようがなかったと思いますが、これまでの仕事を大きな しかし、 経営者としての反省や未来のあり方を熟慮すべき時期だったのではないか 今思えば何の苦労もせず恵まれた時流に乗り、とんとん拍子に成長できた

「動く」「情熱」「熱意」だけで突き進んでいたような気がします。

頼しました。 から帳簿の完備、年次・月次決算のため税理士の世話になりながら、経営の指導も依 会社経営となると、法人として納税申告義務が発生します。今までのどんぶり勘定 自分を見失いそうになりながらも、大勢の人の支えで大きな階段を一段上がった 事務職員として義姉に来てもらい、従業員も増員しました。 仕 事に追わ

の時間を頻繋に楽しんでいたことが思い出されます。 であったボーリングに誘われ、いつの間にか熱中するようになり、仕事が終わった夜 ほとんど休日もなくお酒も飲めず、 趣味もなかった私でしたがその頃の一大ブーム

ような気がしました。

子供を思いやる気持ちが欠如していたこと、そして周りの人々への配慮に欠けていた たことを思い出します。家族、特に小さな子供二人を抱え、家事や会社の仕事と私よ りも大変だったかもしれない実情を理解できるまで、少し時間がかかりました。妻や い合いになったことがありました。結婚してから初めて、 そんなある日、 妻に「自分のことしか考えていない」と注意され、ムカッとして言 胸に刺さるような言葉だっ

ことを痛感して、この頃より経営者としての自覚がやっと芽生え始めました。そして、

税理士の勧めもあり講演会や勉強会に参加するようになりました。

新社屋の完成と会社の設立、そして8月には待望の次女が誕生し、嬉しいことの連

続でした。大きな希望と夢を抱きながら36歳の挑戦が始まりました。

からの借り入れで、

その年、会社の隣地が売りに出され、当時の「土地神話」に後押しされ、信用金庫

37坪を取得することが出来ました。

●不況の深刻化 (昭和47~50年)

田 たことで、300万円の不良債権が発生し、初めて資金繰りに苦労しました。この年、 騰して工事が遅れ、大きな赤字を出しました。 [中角栄内閣が発足、日本列島改造論が発表され、高度経済成長期を迎え、景気がな 昭和47年はニクソンショックのため、 建築資材の中でも特にセメントが不足・高 続いて鉄骨工事(元請)会社が倒産し

お上向きになる気配でした。

客様 若さと勢いで何とか乗り切りました。その頃の流行語は「じっとがまんの子であった」 足により「狂乱物価」が発生しました。建築資材も高騰して工事価格が安定せず、お でしたが、まさに「がまんして頑張ろう」と自分自身を励ます言葉にもなっていました。 昭 和 への対応や従業員の采配、 48年には第一次オイルショックで物価が上昇し、石油製品・洗剤・紙類の不 資金繰りなど初めて経営の難しさに直面しましたが、

には、 中で、工事管理や経営のバランスがますます問われることになり、すべて自分が中心 客様の信用も厚いNさん。彼には、その他鉄骨造や土木工事、リフォーム工事の担当 ることにしました。一人は技術力が抜群である、木造建築大工のベテランAさん。彼 工事現場の指示や、 するために、従業員を増員して建築全般(土木工事含む)を手がけ始めました。その の工事体制の限界を痛感するようになりました。そこで、組織づくりの第一歩として、 受注量の増加によって木造戸建てを主体としたわが社でしたが、客層の変化に対応 木造仕事の担当になってもらいました。もう一人は、器用で人当たりが良くお 協力業者への連絡、 私に対するアドバイスを従業員二人に依頼す

だったと感謝しています。 大事な要因となります。私は下職専門業者に恵まれたことが、当社の安定要因の1つ たくさんの専門業者との信頼関係と協力が不可欠であり、工事の善し悪しを左右する 傾けるようになったことで、一歩前進したような気がしました。建築業というものは、 をお願いしました。 能力不足でありながら、何でも一人でやろうとしていた無謀な私が、人の話に耳を

安定的 事を頂けるようになりました。そのようなこともあって、 でリフォーム会社の社員の方とお茶を飲みながら何度か話すうちに、いつの間にか仕 剣に取り組み始めました。そんな時、ある勉強会で隣り合った大手デパートの子会社 受注量は常に半年以上を目標としていましたが、見通しが狂い始めた頃でもあります。 大型倒産が発生(「興人」など)し、受注量の見込みは不安定なものとなりました。 昭 和 149年に入ると、世間では不況が深刻化し、完全失業者が100万人を超え、 な受注の必要性を感じ、 勉強会や体験発表会に参加し、 出会いの不思議さを感じま 営業のあり方などに真

ば 確保できたものの、思ったより利益が少なく、仕事としても中途半端でやり甲斐の乏 確保するために大手ハウスメーカーの下請け工事に着手しました。しかし、 は良かったのですが、 しさを感じ、結局は辞退することになりました。新しいことに挑戦する前向きな姿勢 しば耳にするようになり、 勉強会の中で日本の住宅業界の将来について、プレハブ化(品質・工期) 結局は忙しさに追われ、自分自身を見失うような頭の混乱が続 わが社でもこの流れに乗ってみようと、安定的に仕事を の話をし 仕事量は

把握し、 自分の能力を顧みるゆとりを失うことになりました。時間に余裕を持って現状を 将来を展望したうえで冷静に方向性を見定めるべきであったと反省していま

す。

頂きました。 かけとなる最初の戸建て住宅工事を頂いた、 昭 「和50年には不況の深刻化が進み、仕事の浮き沈みに悪戦苦闘する中、独立のきっ 過去5軒の新築工事の紹介を頂き、今回が6軒目の紹介でした。改めて 小嶋様のご紹介で同僚の方の住宅工事を

小嶋様の「人間力」の大きさを感じました。

が、従業員と協力企業の尽力、そして何よりも設計事務所の強力なバックアップによっ 頼に応える責任を負うことは将来のための良い経験になると、 ろうかと迷いましたが、他社との競合がない特命工事ということもあり、 額なもので、8200万円でした。その額の大きさに驚き、果たして自社で出来るだ 増改築工事 さらに、 道路の狭い商店街で交通規制があり、 創業初期の頃に大野女史に紹介して頂いた、港区の大和不動産から大きな (自社ビル鉄骨3階建) を受注しました。 資材の搬入・搬出に大変苦労しました 総額はわが社始まって以来 感謝してお引き受けし お客様の信

第1章 【自分を語る】堅谷 政男

うことを実感した時期でもあり、年間売上高も1億3千万円を突破しました。 て、施主様にご満足頂ける施工を完成させることが出来ました。「為せば成る」とい

●創業10年を迎える (昭和51~54年)

業は易く守勢は難し」と言われるように、とんとん拍子にここまできて、気がついた けを考えていれば良かった頃とは状況が違います。 らいつの間にかの10年という感覚でした。当然ながら今後は、自分と家族のことだ 仕事を確保することは、これまでのように紹介だけに頼るわけにもいきません。「創 れたものでした。当然ながら、10人近い従業員と協力企業14社を抱え、安定的に の10年でした。 工務店として創業10年を迎えました。 備えて事務員、現場監督を新たに雇うことにしました。昭和51年、木造建築主体の 昭和48年に買った会社の隣地に鉄骨建ての倉庫・事務所を新築し、仕事の拡大に 起業はまさに偶然の出会いから始まり、多くのつながりが導いてく 世の中の移り替わりが激しく、あっという間

催しを行うことにしました。信用金庫のホールを借り、従業員と協力企業者総勢25 ら本当の経営者としての姿勢を正し、再出発点にしようと10周年記念のささやかな そこでお客様や取引先の信頼を得て、 社会的な責任を果たしていくために、

記念品としました。「感謝」「協力」「反省」の3つの心を忘れないよう、たどたどし いう意味で「誠実」という言葉を掲げ、書道家の方に色紙を書いてもらい額に入れて 人の参加で、 工務店のスローガンを発表しました。真心のこもった仕事を提供すると

く挨拶をしたように思います。

生(私の独立以来最初のお客様、 出会いに改めて感謝し、涙した覚えがあります。 う演題で語っていただきました。 講演会は、講師として朝日新聞、 10周年記念にふさわしいお話に感激し、 恩人)にお願いし、「お天道様は見ているよ」とい 教育雑誌『のびのび』の編集長であった小嶋正先 先生との

会食しながら親睦を図りました。その他、ボーリング大会やゴルフコンペ、旅行など のレクリエーションのイベントも企画し、楽しい時間を過ごしました。以降、堅友会 「堅友会」を設立しました。月1回の会合で会社の状況報告や意見交換、討議などの後、 この記念日の後、協力業者と従業員の親睦を図り、会社の発展へとつなげるために

そしてちょうどこの頃から、私はゴルフを本格的に始めました。 以前より仲間に誘

の交流活動は33年間続くことになりとても感謝しています。

われ、 誘いに乗り、必要以上の材料を買い上げてコンペに参加しました。それがコース初デ ていました。 練習場の打ちっ放しへ行くことがしばしばあり、密かにコースに出る日を待っ ある日、 建材屋から「材料の買い上げ額により、 コースに招待」という

ビューでした。

ました。 上の幸せを感じる1日を過ごしたことを忘れられず、唯一の趣味として35年間続け 浴びた後の帰りの車中での会話、年齢も性別も異なる仲間が一緒になって楽しみ、 最初の1杯のビールの美味しさは格別でした。食事を楽しみながらの談笑、 の雑踏から逃れて緑と青空の下、白球を追い回し、汗をかいた後のクラブハウスでの ち走り回り大変恥ずかしい思いをしたことが、懐かしく思い出されます。しかし、日々 スコアはともかく、ボールにクラブがなかなか上手く当たってくれず、 あっちこっ お風呂を 極

退社してしまい、雇用の難しさを初めて痛感しました。 設計兼現場監督を雇いました。しかし、会社の気風になじめなかったのか、 昭 「和52年より下請け工事も加わり、現場の数が増したので現場管理の徹底のため、 数ヶ月で

注することにしました。

を請け負った時の思いと同じで、新しい経験であり将来必ず通る道であると考え、 辞退するべきかどうかと悩み、銀行に相談したところ融資が得られ、仕事を受注する 部を30坪の土地の現物で取って欲しいという工事依頼条件が出されました。これは とか見積書を提出しました(店舗部分の内装は別途)。するとその後、 外壁のデザインのため、 事の見積もり依頼がありました。鉄筋コンクリート造の仕事は初めてで、 ことが出来ましたが不安で一杯でした。 昭 和53年には、 知り合いの紹介で、 難工事が予想されましたが、 しかし、以前に木造建築から初めて鉄骨工事 鉄筋コンクリート造2階建てのレストラン工 設計事務所の協力によって、 工事代金の 曲線が多い 何

なりました。この工事の完成は協力してくれた皆さんの力添えだと大変感謝していま 経験で初の鉄筋コンクリート造、しかも難工事のために常駐の現場監督を雇うことに の協力で何とか完成に漕ぎつけました。何の学もなく独立して以来、たった12年の うと思います。 後々振 り返ると、緻密な計算も冷静な判断も出来ず、何と無謀な受注をしたんだろ しかし当時は、ただ前進あるのみという若さと情熱、そして現場 の人々

●二足の草鞋 (昭和55~61年)

だったとは知らずに、いつの間にかそのうねりの中に入って行くことになりました。 金が土地や株式、ゴルフ場などに向けられていました。空前の好景気(バブル現象) 昭和54年以降は世の中全体が浮かれた金余り現象が発生(プラザ合意)し、その

増え、受注の見通しも地元の地主の方に認められていたので順調で、 受注工事量が増加し、銀行の借入(土地担保)が出来たので会社の隣地を取得しま そこに作業場を新築し、受注工事の一部代金のために引き取った土地と資産が 業績も返済に影

ある時、新築現場の引き渡し清掃が自社では間に合わず(今までは自社の従業員で

響なく推移していきました。

ンサービスマスター(掃除業)でした。それが1つのきっかけとなり、 行っていました)、外注に任せることになって探し当てたのが、 発足間もないダスキ わが社でも事

営業上プラスに働くと直感しました。 業の一環となるのではないかと思いました。また、工務店との相乗効果を期待でき、

営理念」が魅力的であったことも理由として挙げられます。 を聞いたうえで入会の決意をしました。決意に至ったきっかけとして、「ダスキン経 早速説明会に出向き、ダスキンの内容を調べて何軒かの既存店にお邪魔して、お話

たと思います。「二兎を追うものは一兎をも得ず」という言葉との葛藤が続きましたが、 会すれば、工務店経営の参考にもなるのではないかということも入会の後押しとなっ そんな気持ちは今までに経験したことがなく、一種の感動でもありました。そして入 夢のような理想的な言葉でしたが、せめて心がけだけでも持ち続けたいと思いました。 ねまきをすること」「物心共に豊かなり」「生きがいのある世の中にすること」、など ンスです」に始まり、「損と徳とあらば損の道を行くこと」「他人に対しては喜びのた とにかく取り組んでみることにしました。 「一日一日と今日こそは、あなたの人生が(私の人生が)新しく生まれ変わるチャ

キンユアーズと命名)は、工務店の仕事と二足の草鞋を履くことになりました。 10月早々に14日間、大阪の研修センターでの研修に参加しました。終了後(ダス 9 8 3 (昭和58)年9月に210万円を支払って加盟店契約を交わし、 経営者としての資質の欠如が浮き彫りになる出来事でした。

1

9 8 5

(昭和60)年、ある方から自衛隊駐屯地内の仕事の紹介を頂きました。

積みました。さらにチラシ広告や宣伝活動、従業員の募集および教育と軌道に乗せる ためには半年以上かかると覚悟の上でスタートしました。 お **-掃除とはいえ、研修後すぐにできるわけでもなく、一定の期間は既存店で実習を**

社員 告、トラブル事例の発表・質疑応答後、街へ出て懇親会が行われました。 らう催し)を開催しました。反応は好評で以後推し進めようと思い、この年には新入 の一環として、新築住宅見学会(新築住宅の完成後、一定期間ご近所の方々に見ても 宅の需要の変化(量から質へ)が起こっていることに気づき、工務店の営業アピール は見かけない楽しさもあり、すべてのお話が新鮮で参考になった心豊かな集いでした。 マニュアルなどの整備が間に合わず、時期尚早のためか数ヶ月で退社となりました。 ケ月に 9 8 4 (専門学校卒)2名を採用して人材育成に乗り出しました。 1回のペースで加盟店会が行われ、 (昭和59) 年、慌ただしくも順調に受注工事が発生していましたが、 本部への報告や加盟店の方々の近況報 しかし、 建築業界で 指導 · 育成 住

けましたが、 争入札となります。 業の心配がなく、工事入札募集発表の掲示を見て入札に参加し、 にか官公庁の仕事もわが社の仕事の糧となっていました。民間工事と違って特別な営 所の駐屯地に出入りすることになりました。足立区の指名業者登録をして、いつの間 書類審査によって競争入札に参加できるようになり、何件か落札して実績がつき、数ヶ 次第に調整が困難になったためしばらく官公庁仕事を辞退し、 落札できる場合、 出来ない場合があり、 談合の話もあって断 数社から数十社の競 後に撤退 り続

たに て資材置き場を岩槻市(現さいたま市)につくるために土地を確保し、続いて会社の 軒隣 .取得するというように、まさにバブルの真っ只中にいたのだと思います。 9 8 6 の土地が急に売りに出されたので、以前取得していた資材置き場を売却して新 紹介による工事が続いて好調な業績が持続できました。 (昭和61) 年以後、 世間では円高が進んで不況への足音が聞こえていま 工事量 の増加によっ

導を行って、現場へ同行すること1年。本部からの紹介電話、

ダスキンユアーズ発足以降は専従者が決まり、

技術指導・マナー・ルール

の徹底指

姉妹店からの紹介と少

【自分を語る】堅谷 政男 第1章

力、そして幸運に恵まれていたと感じます。 しずつ伸びて、ようやく軌道に乗ったような感じがしました。

その間にも工務店の仕事も順調に伸ばし続けられたことは、従業員や協力企業の協

八起会へ入会、城北リフォームセンター設立 (昭和60~63年)

が土地やゴルフ場などからの投資によるものであるため、実事上は赤字が出ていまし 周年を迎え、 巷では不況の深刻化が進み、サラ金苦が話題になっていました。会社設立から20 わが社の業態は苦しい中でも売上高は2億円を超えていましたが、 利益

先生のお話を聞く機会を年1回設けていました。 いました。従業員や協力会社の合同勉強会によって意識を高めようと、外部の著名な 設立10周年以降、会社のレベルアップを図ろうと、堅友会の活動も活発に行って た。

とを知りました。「会社を倒産させない」ための貴重な体験を生かして、弁護士・公 倒産経験者が数人で立ち上げたボランティア組織「八起会」(やおきかい)があるこ 身の倒産の実態が生々しく書かれていました。その倒産経験を無駄にしないために、 う本に出合いました。何気なく手に取って数ページ読んでみましたが、この本はご自 ある日、神田の本屋街をのぞいていたら、『商魂』(八起会会長 野口誠一著)とい の経営を反省することができ、大変参考になったことを思い出します。

そしてこの会は野口会長の指導力、人間的な魅力(正しい生き方)、

認会計士の方と力を合わせ、 倒産の危機にある中小零細企業の経営者の駆け込み寺的

な存在と言えるものでした。

から立ち上がる様子などが書かれていました。読み進めていくうちに、だんだんと他 買い求め、 頂きました。 人事でないと感じ、さらにもっと知りたくなって八起会の事務所を訪ねて入会させて 本を読み進めると、 その日のうちに読み切りました。本には倒産の怖さや悲惨さ、そのどん底 部分的に自分にも当てはまるところがたくさんあったので早速

者の体験談を聞いて常に危機感を持続できるようになりました。緊張感を持ち、自社 支え合いによって再起した、多くの会員の姿を間近に見ましたし、 皆さんに好評だったことが思い出されます。その後は毎月行われる例会や体験発表、 弁護士相談、 後に堅谷工務店の勉強会の講師として、野口会長をお迎えしてリアルな話を聞き、 経営相談会に欠かさず参加しました。野口会長の指導による会員相互の 毎月何人かの 倒産

企業の再起は

85歳で死去)。八起会は40周年をもって解散し、以後「新八起会」として現在も 物や金でなく「心から」と説く家庭的な身の上相談により、多く会員が活かされて 0 年も続いた偉大な存在であったと思います(会長の野口誠一氏は20 16年に

野口会長や会員の皆様のおかげと感謝しています。 さは私の人生の宝として老いたる今でも文通、励ましの言葉を頂いています。これも 私の本当の経営の勉強は、八起会から学んだことが大きくあり、会員との絆の大き

継続中です。

出来ました。これもそれぞれの従業員、各協力会社の力添えのたまものだと感謝して スタートしました。 株式会社「城北リフォームセンター」を新しく設立することにしました。代表は変わ 績が上がり、工務店との両立も一人では難しくなりました。そのため新会社として、 堅谷工務店の第2の柱にしようかと設立した掃除業(ダスキンユアーズ) 責任者を人の紹介で雇ってお掃除・塗装工事・リフォームを営業社員と3人で お陰様で私は約2年間、工務店のほうの大工事に専念することが は年々業

ŧ 室工事 方、 有能な設計士の指導が力を与えてくれましたが、次々と襲いかかる難工事に苦労しま して受注しました。当然ながら設計事務所と施主の打ち合わせからスタートし、 う期待と信頼も感じました。「これを裏切ることはできない」、それこそ赤字になって ぎて、過去の経験だけではとても無理ではないかとも考えました。最大の問題は地下 はびっくり仰天し、果たしてやるべきか・辞退すべきか悩みました。 3階建て延べ面積260坪、工事予算は3億5000万円。最初にお話を頂 要でしたが雇うことはなく、 ではありませんでした。しかも立地条件は、狭小地で商店街の奥となっています。 の 1 社、 恩人である大野女史の紹介で、いくつもの案件をご紹介頂いていました。 大げさに言えば命を懸けてでも期待に応えるべきと判断するに至り、 施主様の思いや堅谷という岩手の田舎者だけど、何とかやってくれるだろうとい 特に土木工事や土砂の搬出、防護壁の設置などです。専門の専任現場主任も必 (止水問題)であり、木造建築主体の工事を行っている工務店が取り組む仕事 大和 不動産から自社ビルの建て替え工事の打診がありました。地下1階地上 自分で一級建築施工管理士の免許を取得して、 ハードル 特命工事と 現場管理 いたとき が 高す

浜から港区田町の現場まで約40分かけて向かい、商店街の通行時間内に資材の搬出 に大型スクーターで通勤し、 もすべて自分で行いました。 交通警備員2人を常駐させ、現場の経費を削減するため 早朝に事務所のデスクワークを済ませました。 そして鹿

以後は必要に応じて現場事務所から各現場に直行しました。

をする予定でしたが、考えていたメッセージが感激のあまり頭から消え、 盛大に開催して頂き、100人近い来賓を前に感謝状と金一封を頂きました。ご挨拶 れます。51歳の秋でした。皆さんの力添えが心に沁みた感謝の記憶となりました。 り涙を止めることが出来ず、 で大事に至らず休むことはなく、 の繰り返しを約 1年間続け、 大変恥ずかしい思いをしたことが昨日のように思い出さ 建物は見事に完成しました。完成祝賀パーティーを 高速道路で接触事故に遭うなどしましたが右足捻挫 言葉に詰ま

モデルハウスの建設、NHK学園での学び (昭和63年~)

進国 断行 め、住宅メーカーのFCに加入(1990年)してモデルハウスを建設しました。先 超えていました。 進国を視察し、 しました。 ことになりました。 大和不動産の工事が大成功を収め、 の住宅 (これが過剰投資となる) しました。2×4住宅の先進国カナダ、アメリカの先 また一歩先んじようと、モデルハウスの計画のため土地取得と先行投資を (工業化・合理化・高気密、 モデルハウスの建設資金や借入金などは一億円を超え、 危機的状況に直面し、 高額の税金も納めることになり、 まさに堅谷工務店始まって以来の業績を上げる 高断熱等)を何とか販売につなげたい、そん 慎重に対処するため所有する土地の売却を進 岩槻に資材置き場を新たに取得 自分の想定も

な夢を見ながら踏み出した大事業でした。

心が蘇り、 通信制高校であるNHK学園高等学校に入学する話を聞き、 長い間忘れていた学びの心。平成4年のある日に、 あっという間に出願して入学しました。 昔の友人から電話があ 私にも学びの

め、 けること3年。バブル崩壊も重なり、工務店の仕事も厳しくなる一方で心身ともに疲 したが、任せた人材が力を発揮できずに、2年で退社することになりました。そのた ダスキンユアーズを株式会社城北リフォームセンターとして独立させて効率を図りま と手にした称号であり、自分にとってはかけがえのない大きな達成感がありました。 の資格を頂き、昭和27年から高卒の資格を追い求めた努力の結果、27年かけてやっ むことなく、お陰様で平成7年3月にめでたく卒業出来ました。仕事をしながら高卒 生の一人として活動報告を伝えてくれます。こうした先輩の導きで、3年間学校を休 ために努めてくれました。その方は成績も良く法政大学へ進学し、今でも頼れる同級 まりもよく、クラス委員長に選ばれた人は皆から信頼され、卒業まで3年間クラスの 目でした。年齢も私に近い男性が1人、女性3人ほどであとは若い生徒でした。まと は出来ない体験をした56歳の春でした。50人ほどのクラスで、皆若くそして真面 2×4住宅のモデルハウスの建設によって、堅谷工務店の営業方針も変わりました。 土日祝日はスクーリング、夜はラジオによる放送授業で勉強を進めました。遊びで 再び兼務することになり、ダスキンユアーズのお客様に迷惑をかけない仕事を続

【自分を語る】堅谷 政男 となってこの難局に立ち向かい、一生懸命努力して頂きました。一度も赤字に落ちる そうした順調な流れのなかで、 順調に推移していることに感謝しています。

た頃、 3時間 務所の経営指導の下、安部社長をはじめ主力社員3人、パート従業員8人全員が一丸 間で業務の引継ぎなどが完全にはできておらず、後見人との協議の末、財務会計など ち前の意志の強さと行動力、努力を発揮して立派に立て直してくれましたことには、 れ果てていました。城北リフォームセンターの業務が足かせとなり、手じまいも考え の再編を経て、安部まゆみ氏に経営を託すことになりました。以来、 の若さでこの世を去りました(2015年4月)。突然の訃報によって、後継者との ただただ感謝と尊敬の念で一杯でした。 くれました。 義弟 の通勤 (妻の弟) が会計事務所に勤務していた経験を活かし、経営を引き受けて 何ヶ月かの現場実践において思惑が一致しました。 (栃木市から足立区鹿浜まで電車・バス通勤)で、 一義弟は突然体調不良を起こし、肺がんのため72歳 傾きかけた会社を持 以来22年間、片道 田上財務会計事

●物をつくる前に人をつくる (平成8年~)

れたため、会社全体を精査する必要を感じておりました。そこで会計事務所と相談の 1 996年(平成8年)、時勢の変化に伴いわが社の組織や方向性に不透明さが表

検討し、経営方針を練り上げました。地に足をつけた方針と言えるほどではありませ 難局に立ち向かうために、税理士やコンサルタントを交えながら2ヶ月をかけて協議 を向け、売上高を重視する方向性から、身の丈に合った経営への方向転換を行いまし たと認識しました。拡大ではなく縮小の方向で、リフォーム工事や下請け仕事にも目 かかるという認識不足)、バブル崩壊による不良債権の発生など、大変革の時期であっ をたどっていました。過剰投資(モデルハウスの土地、建築費の借入の回収に時間が 大和不動産の工事成功以来、好調が続いていた業績も1991年以降は悪化の一途 経営方針発表会を開催することにしました。 あわせて60歳近くとなり、後継者問題も浮上してきました。続々と迫ってくる

んでしたが、創業30周年記念・経営方針発表会を開催するに至りました(30人出

席)。

従業員 草加市谷塚町に自宅マンションを購入して移転しました(個人と会社の区別のため)。 るだけでなく「(仕事の)物をつくる前に、人をつくる」という人材育成に重点を置き、 としました。 は目まぐるし でした。 の頃、2×4住宅展示場の成果も現れず、在来工法との販売がアンバランスなた の経営方針発表会の開催は満足とは言えないものの、決して無駄ではありません (の物心両面の幸福の追求、そして会社の進歩発展につなげることを最重点事項 時流と幸運に恵まれ、 財務的に借入依存体質からの脱却を進め い時代の変革期でした。いったん立ち止まり、 熱意と情熱により成長し成功してきましたが、この時 (資産の売却)、平成9年には 戦略を見直してただ攻め

め、 元請け会社が倒産したため運転資金に困り、 5年で閉鎖売却に至りました。リフォーム工事と下請け工事で補っておりました 親戚個人からの借入によって、 事無

きを得たことが大変有難く、忘れられない出来事でした。

如何せん時間を必要とするものです。独立以来の計画性を問われる思いで、 経営方針発表会の後は、若い従業員を育成するために勉強会などを開催しましたが、 経営の難

しさを改めて痛感した時期でした。

かり、 て、後継者問題に直面しておりました。考えてみたら最も重大な事案であることが分 また何よりも創業30周年、 経営方針発表会があっての気づきだったことに感謝しています。 自身は還暦を迎えるにあたり会社の将来と継承につい

て他の道を選びました。工務店の後継ぎは自分にはできそうにないということで、後 た。将来を見据えて、当地の工務店に就職して1年ほど勤めましたが、思うところあっ の時は時期尚早と判断しました。そして数年後、長男は結婚に伴い遠方に転居しまし かつて長男が高校を卒業した折、会社の後継者にと考えたこともありましたが、そ

があったように感じます。そんな社長の背中は、社員にどう映っていたのだろうか、 てみたものの目先の仕事に追われ、心に余裕もなく、私自身社長としての資質に問題 た。しかし、元々そんなに立派な会社と言い得るような会社でもなく、経営計画を作っ 時点で最優先であることを認識し、頼みはやはり社員の中からということになりまし 継者問題は断念していたという経緯があります。 それ以来仕事に追われ、じっくりと取り組むことができなかった後継者問題。この

社の発展のために寄与してくれたN氏に後継の打診を始めました。 だろうかと、自問自答しておりました。数少ない社員の中から、長年当社に勤務し会 決していい姿ではなかったと思います。そんな会社の経営を喜んで引き受けてくれる

が、 化や将来への不安もあったものと感じています。 ならば、 明確な提案を出せないまま時が過ぎてしまうことになりました。誰しも経営者となる ませんでした。 とはいえ、 雇わ 自らの資本をもって経営に臨みたいのが本音だと思います。言葉は悪いです れ社長では会社・経営への思いや情熱も異なるかもしれませんし、業界の変 後継の相談なんて初めてのことで、当初はなかなかハッキリと言い出せ 無理強いはできないし、断られる恐れもありました。結局のところ、

迷惑をかけないで廃業する (平成16~28年)

題の先行きが見えない状態となりました。 後継の相談を進めていたN氏が体調を崩してしまいました。右腕として信頼していた 5億円あった売上高も年々減少傾向にありました。 事務所との提携やリストラなども少しずつ進めながら、模索すること数年。 N氏が長期療養を余儀なくされ、さらにご家族の健康上の理由などもあり、 借入金処理のために資産を売却し、下請け先の再検討に取り組み始めました。 後継者問題も進展しない状況で、 後継者問 最高 時で

愚策は きく発展させる責務があるのに、 は 顧客や取引先の信用を得ているという社会的な責任から、簡単に会社をたたむわけに いかないことを痛感しました。まして自ら創業し、育て上げてきた会社をさらに大 経営者の責任は会社をいかに存続させていくかという点にあります。 悩み苦しむことしかできない数ヶ月。たどり着いた 社員を雇

初めて「廃業」という選択肢が思い浮かび、夢と希望に満ちた輝かしい40年に暗

【自分を語る】堅谷 政男 ることになっています。 業務に差し障ることがあったほどでしたが、間もなく廃業計画の作成に着手しました。 問題が後手となってしまい、さらに後継者の育成には10年かかると知りました。こ 雲が立ち込めました。しかし、経営能力不足はいかんともし難く、肝心な会社の存続 んなに時間がかかると思わずにいた、認識不足が悔やまれます。 中 * * * 【私の決めた廃業への重点4項目】 *木造住宅新築10年保証期間内は廃業しない 「廃業」という選択肢が出てきてからは、 従業員のリストラをゆっくりと進める 資産の処分、借入金の返済 期間内はリフォーム工事、下請け工事に徹する 小建築業界の特徴として、各下請け業者は元請け業者と共に一体となって協力す 協力業者さえいてくれれば、職人を直接雇い入れなくても、 毎日が後始末のことで頭が一

杯で、

日常

業者に任せられます。やがて廃業の最後には自分一人だけになっても、そこまででき られました。 なりません。そうした出会いに数多く恵まれ、それによって事業を今日まで続けてこ ありません。 るのは協力業者の存在あればこそなのです。ただし、協力業者は誰でもいいわけでは は木工事しかできませんが、 会社を閉じるまでの10年間はリフォーム工事を中心にやっていけます。自分一人で 公私共に長年付き合い、気心の知れた人物・仲間・協力業者でなければ 電気・水道・塗装などは信頼できる仲間ともいえる協力

かし、 手のボランティアもさせてもらいました。自分自身も十分に高齢になっていましたが、 パー2級の資格を取得したのは74歳の時でした。 たです。配送業務に加え、早朝の牛乳配達も数年行いました。 運送も始めました。仕事はきつかったですが、さまざまな境遇の仲間も出来て楽しかっ 独自に定年を80歳と定め、誰にも迷惑をかけずに廃業する計画を進めました。 思ったように仕事が続かず、 職人分のほかに自らの給料分を稼ぐため、 施設でのお茶汲み、 研修に通い、介護へル 傾聴、 将棋相 軽貨物

純粋に人の役に立ちたいという思いのほうが強かったです。

けとして懇意にしてもらい、今までの工務店業務とは随分違う時間の使い方に変わっ もなく、職人や協力業者への協力に徹していました。準大手のリフォーム会社の下請 この頃、 不動産売却によって借入金返済に目途が立ち、 設備等の新たな投資の予定

新築住宅を建てました。 さかのぼって平成16年、一人暮らしの高齢者のために住みやすく工夫した平屋の 翌平成17年に建てた最後の新築住宅は、会社社長の高級な

一世帯住宅で、いずれも自信作でした。

ていきました。

日に、 社堅谷工務店は51年間の営業に終止符を打つことになりました。その年の3月26 それらの建物の保証期間であった10年の満了を迎え、平成28年3月末、 私は80歳の誕生日を迎えていました。 有限会

一廃業から現在・当時の日記より

【廃業に思う】

限界だった。私には重すぎた。すっきりしたかった。 そんな気持ちだ。人は「会社を閉めるなんてもったいない」と言うが、潮時だった。 から良いではないか。満足とは言えないが、良くやったと自分自身をほめてやりたい。 これが自分の実力だったのだ。これが俺の人生だった。一生懸命やってこの結果だ

そうだ。創業時は30歳手前、廃業時は80歳。 こそ無我夢中で突っ走ることができたが、晩年はさすがに重たくなっていた。それは 健康な身体を資本に、責任感と情熱をしっかり背負ってやり遂げた。若い頃はそれ

それにしても振り返って思うことは、「恵まれていた」ということ。時代もそう、

出会いは特にそう。

従業員、仕事仲間、 お客様。一つ一つの出会いは語り尽くすことができない。「恵

まれていた」ことへの感謝。どれほどの感謝を、 い。「人の役に立ちたい」という思いは、この感謝からくるのだ。 誰に対してしたらいいのか分からな

【堅谷政男80歳からの目標】

一日一日充実した生活を送るために

日々挨拶、笑顔、感謝を忘れずに(特に妻・敦子に)

今日より明日、 進歩、成長(一日に一回は何か良いことをしよう)

人の役に立つことを心がける

自分が実践していくだけ。楽しくて笑顔になることを何十年も続けていき、周りの人 人は、自分が実践していないことがある。自分でやるべきことを感じたのなら、ただ に喜ばれるように実践する。「自分がどう生きるか」に徹してみよう。 「多くの人に伝えたい」「世の中を変えよう」という考えを全部やめる。このような

【讃美歌520番・真実に清く生きたい】

1 真実に清く生きたい、 誠実な友のために。 恐れず強くありたい、なすべきわざ

のために。

2 まことの友となりたい、友なき人の友と、与えて報い求めぬまことの愛の人と。

3 謙虚に進みゆきたい、弱さを自覚しつつ。行く手はなお遠くても心を高く上げ

よう。

(2021年8月15日 日曜礼拝 日本キリスト教会南浦和教会にて)

謙虚に、 謙虚に生きたい。 自分を常に自覚しつつ。余命は少しでも、心は常に清く

高く目指して生きよう。

方がはるかに強かった。一人では小さく弱い私に、不思議な出会いがたくさん与えら そしてなぜだか自分が成功したいという欲望よりも、人の役に立ちたいという思いの 私は気が小さく臆病で劣等感が強かった。自分の小ささ弱さは痛いほど自覚してい 忍耐力と責任感も同じように強く、粘り強く一生懸命努力することができた。

ちたい。

謙虚であらずにはいられない。感謝せずにはいられない。これからも誰かの役に立 家族や仕事、人に恵まれ生きて来られた。上出来、そしてありがたい人生である。

· 完 |

●政男のある日ある時① ~古いオルガンの話~

(平成29年10月10日 かたや通信第101号より)

けを担うことになりました。そのなかに、古いオルガンがありましたが、どう処 義弟が亡くなり、彼が会社への通勤のため、仮住まいに使っていた部屋の片付

分するかで迷いました。

らない、しかし壊すにはもったいない。70キログラムほどの重さがあり、2階 から降ろすことも大変であるため、どうしたものかと悩んでいました。しばらく 楽器屋さんも引き取ってくれない、使ってくれる人を探してみましたが見つか 娘に相談して見に来てもらったところ、音色も良く、捨てるには惜しいと

のことで、何人かの友達に聞いてくれました。そして、友達のおばあちゃんが認

教育にも役立つからほしいとのことでした。「良かった」と思ったものの、 ガニストをしていたことを聞きました。また、2歳、 知症を発症していて、オルガンが指先の運動によく、また数年前まで教会のオル 4歳の姉妹がいるため音楽

大きな問題がありました。

むと5万円はかかるとのこと。古いオルガンを運ぶのに5万円かかることになる のは、正直心苦しい。何とかしなくてはと思い立ち、トラックを借りて自分で運 それは、運搬の問題です。埼玉県西部から片道65キロもあり、運送会社に頼

ぶことにしました。

きました。小さな姉妹の喜びようは大変なものであり、姉妹に急かされてお母さ んが早速オルガンを弾いて3人で歌い始めました……2曲、3曲と楽しそうに。 私はこんなに喜んでくれるとは思いませんでした。何だか、心がとても豊かに 当日は天気にも恵まれた2時間半のドライブで、山奥の静かな山村にたどり着

なりました。古いオルガンが人の心を揺り動かしてくれたのだと思うと嬉しくな

りました。

中に、感謝のメッセージと寸志が添えてありました。心が伝わり、さらに感激し、 した。こういう感情はお金ではなく、無償でいいと思っていましたがお土産袋の オルガンを壊さずに、根気よく必要な人を探して良かったと、しみじみ感じま

生き甲斐すら感じた豊かな1日でした。

110

第2章 【だれにも迷惑をかけない廃業をめざした】

〜時勢と人との出会いを味方に、一所懸命努力してきた〜 『大廃業時代・創業社長の事業の継なげ方 終い方』(塩原勝美編著)より

なげ方 本章は、2018(平成30)年に出版された『大廃業時代・創業社長の事業の継 終い方』 (塩原勝美編著)から、堅谷政男のインタビュー内容を再収録した

ものです。

です。 を生き抜くヒント、そしてだれにも迷惑をかけずに廃業したい方の一助となれば幸い く、これから起業を考えられている方にも、参考になる内容となっております。 と共に歩んできたからこそ、語れる真実がここにはあります。令和やこれからの時代 起業から廃業に至るまでの経緯が記されており、廃業を検討されている方だけでな 時代

(略歴紹介)

◆岩手県久慈市の中学校を卒業後、家が貧乏だったため高校に進学できず、 、昭和26) 年から1955 (昭和30)年まで大工見習いとなる。そして同年に上 1 9 5 1

京する。仕事をしながら、傍ら高校に通う。

を設立する。

る。

処分などを顧客に迷惑をかけないようにゆっくり進め、 続を断念し、 10年で解散することを決断。 借入金の返済、 事業から撤退。 社員のリストラ、資産の 2 1 6 平

◆2004(平成16)年、後継者が病気のため先行きが不透明になり、翌年会社存

成28) 年に堅谷工務店を解散。

従業員として働いていた女性が社長を引き継ぐことに。 関連会社の株式会社城北リフォームセンターは、義弟に譲るも、癌のため亡くなり、

大工見習いを経て上京、昭和40年に起業

塩原 ですから、自ら起業して、事業を軌道に乗せた後の、事業の最後の始末をどうするか? う維持・発展に努めることが大切である。すなわち「創業は易く守成は難し」とあり が『貞観政要』君道篇に、新たに事業を興すことも大事だが、それを衰えさせないよ ましたことですが、著書には起業・独立の入口の事柄はたくさん載せてまいりました まして、これまで数冊の啓蒙書のような本を上梓してまいりました。最近に気がつき は長年ライフワークとして若く志を持った人たちの起業・独立をサポートしてま ということも知っておく必要があると思い立ちました。 のご紹介でお目にかからせていただきました。今日はよろしくお願いいたします。私 一説に創業社長にとって会社は「我が子」だと言う方もいらっしゃいます。 倒産110番で有名な「八起会」(やおきかい)の代表世話人の竹花さんから いり

て事業をするということで、継続していけることを考えていたとお聞きしましたが

堅谷さんは、廃業の途を選ばれたとのことですが、その後、社員の方が手を挙げ

ŧ 不幸なことに、事業がマイナスになる人もいらっしゃるわけです。その辺の事情を冊 と、そして、もうそろそろいいよということで廃業し、悠々自適の人もいます。また すること、また、´会社全体や一部事業をそのまま買収してくれる人がいるということ、 事業を始末する方法としてはたくさんあるわけですね。例えば〝事業を後継者に承継 ちてもいけません。一般的に普通は入口のことを考えるだけで精いっぱいですけれど タートしないと、むやみやたらに短略的にスタートしてしまって、落とし穴に落っこ 起業する人たちは、いろいろなことを勉強して、先輩の話を聞きそれを知恵としてス もう自分もこの辺りが潮時かなということでやめてしまう人もいますけど、これから 塩原 出口のことも考えておきましょうよということです。出口の方の話っていろいろ 違いますか? その辺り事情を少しお聞きしたいですね。堅谷さんとは違って、

子として、若い人に知恵として渡せるようにしたいというのが今回の企画です。

今回、堅谷さんを紹介してくださったのは実は「八起会」の現在の代表世話人の竹

会で、弁護士や税理士、再起に成功した会員らが無料で電話相談に乗る『倒産110番』 がよく知られていますが、堅谷さんは、この「八起会」には何年に入会されたのです ご自身の経営されていた会社の倒産後に設立した倒産経験者同士が助け合う倒産者の 花利明さんです。「八起会」は2016年に亡くなった同会の会長の野口誠一さんが、

か? **堅谷** 「八起会」への入会は1986(昭和61)年か1987(昭和62)年ですから、 2018 (平成30) 年がちょうど八起会が40周年とのことですが……。

もう30年ぐらいですね。

成30)年7月で40周年ですから、 塩原 その八起会ですが、八起会は1978 1986(昭和61)年に堅谷さんが入会した (昭和53) 年にできて、2018 爭

会しておりましたので、恐らくその2年前に入会したのだと思います。 そうですね、私が入会したとき10周年がありました。そのときにはすでに入 ということはかなりのベテラン会員ですね。

塩原 大体それくらいですね。 なるほど。ということは、八起会ができてから7、8年ですね。 塩原

塩原 長の故野口誠一さんの「倒産しないコツは、倒産を恐れることだよ」という話を聞い ていますから その当時に私も入会していましたから、どこかですれ違っていますね。私も会 (笑)。

た。 野口さんが亡くなったときの総まとめを私が委員の一人としてやらせていただきまし たからいいじゃないか。別々になってやりましょう」という話もありましてね。 28) 年に野口会長が亡くなられ、2018 (平成30) 年7月にちょうど40周年 かけです。それがご縁で入会するようになったんですね。しかし、2016 堅谷 で、解散か、または新しい人がやるか決めることになっていますね。「もう40年もやっ 八起会に入会したのは、私どもの会社で野口誠一さんに講師を頼んだのがきっ (平成

塩原 プロフィールを拝見して、大変失礼な言い方になってしまいますが、「面白い」 一応、経歴書とプロフィールをまとめてみましたので、参考までにどうぞ。

方の話の前に、どういう経緯で起業されたのかお話ししていただけますか?

そうですか。ご苦労様でした。では、本題に戻ります。

事業の継なげ方、

と言ったら生意気ですが、大変興味深いご経歴ですね。大工見習いをやって、定時制 で高校に行って、中退して、また大工さんをやって、そして上京するといった普通の

人ではなかなか続かないのではないですか?

堅谷 貧乏な家でしたから、高校に行けなくて、それで丁稚に入って、その傍らで定

時制高校に通学していました。

塩原 4 0 年ですね。大工見習いから約10数年で独立・起業なさったんですね。 大工の見習いをなさってから、堅谷工務店をつくったのは1965 (昭和

ですから、やろうという計画を立ててやるのと異なり、いつの間にかこうなったみた すごく忙しくて、別に創業したくてしたわけではなく、起業したという感じです(笑)。 こんな感じでした。周りにまつり上げられてスタートしたということです。 そうなんですが、別に自分でやろうと思ってやったわけではないんです。 環境がよかったんですね。前回の東京オリンピックバブルの頃ですから、

塩原 それは堅谷さんの信頼と人徳ですよ。

いえいえ(笑)。ですから、全然その頃は起業の苦労というのはあまり知りま

第2章 【だれにも迷惑をかけない廃業をめざした】

せん。

後継者の病気で、 会社の存続を断念し、 10年で廃業計画を進める

になる」と記されていますが、その頃すでに事業承継を考えていたわけですね。 塩原 資料の経歴書には「2004(平成16)年に後継者が病気のため先が不透明

堅谷 は い。 その後継者のために、 お金をかけて経営計画を作りました。

塩原 それはコンサルタント会社か何かで?

計画を作ってから何年かして、後継者が自分でも重荷を感じていたようで、病気になっ そうです。手伝っていただきました。それはそれでよかったのですけど、経営

てしまいました。

なってしまい、先に亡くなってしまいました。そんなこんなで、先行きが見えなくなっ 彼はヘビースモーカーで、 がんでした。肺がんは治ったんですが、今度は奥さんが病気になってしまいました。 最初はうつ病みたいな感じになって、現場で仕事できなくなってしまいました。肺 副流煙の影響かどうかわかりませんが、奥さんが肺がんに

塩原 会社の存続を断念して、10年で堅谷工務店を解散する計画を立てたわけですか? その後継者も強い責任感からのプレッシャーがあったのでしょうね。そして、

10年かけようというのはどういうことで……?

堅谷 10年というのは、 建築の場合は、 特に責任施工といいますか、 いわゆる 10

年保証というのがありまして。ですから、会社を解散するには、やっぱり10年間は

必要だと考えたわけです。

塩原

なるほど、

保証期間みたいなものがあるんですね。もっともなお話ですね。

それ以降は新築の仕事を一切止めて、リフォームですとか、下請けのニーズに移行し 堅谷 それで、少なくとも会社を10年は続けてやらなくてはいけないと考えました。

ていきました。結果的にそうするのに10年かかった感じですね。

ないよう、人間関係に気を付けて進めてきたわけですね。リフォーム会社の下請けに 塩原 そのとき、借入金の返済、 社員のリストラ、 資産の処分など顧客に迷惑をかけ

徹し、 に解散したわけですね。 大きな迷惑をかけずに終えることができて、そして、2016(平成28)年

堅谷 実は、 私が会社の清算人になっています。全部整理するためにです。

1500万円お金が入ってくると考えられるところがありまして……。

塩原 それは売掛金か何かですか?

返済を、 ね、 それを、 性が少し残っているのです。それ解散してしまうと、その権限がなくなりますので、 今もずっと返済しているわけです。それは毎年くじ引きで5500万円ずつの予算で 税務申告の折の法人税均等割額の7万円を納めています。 ゴルフの会員権です。持っていたゴルフ場が会社更生法を適用されその債務を 10年以上やっているんです。いわゆる無尽講のようなものですから、可能 あと何年生きられるか分かりませんけれど、とにかくもったいないですから

塩原 申告するときの決算の税務金額ですね

られるかどうか分かりませんが、そこまではちょっと頑張ってみようと、それでその 年間14、5万円は毎年納めなければいけません。あと5年か10年、 はい、そうです。最低7万円はかかるわけです。税理士の決算費用とか何かで、 それほど生き

ような形を取りました。

塩原

時代とお仲間が味方してくれたんですね

塩原 ですけど、経理や税務の方面には疎いのかなと思ったら、どっこい、ちゃんとやって 素晴らしいですね。失礼ですけど、大工さんだから、 腕に覚えはあるのは当然

堅谷 の人たちからお話を聞いたりしたおかげです。 でも、それはやっぱり、八起会の会員さんに税務に詳しい人がいましたし、

いらっしゃいますね。

会社を作ろうと思って必死に頑張ったのではないんだよと、 塩原 それは素晴らしいですね。いいご縁をいただきましたね。堅谷さんはご自分で 周りから押し上げられて

くて、 堅谷 全くその通りです。日々の努力はしましたけど、なりたくてなったわけではな 時勢に、時代の流れにちょうど乗っかったというか、そんな感じでしたね。

続けてきたと仰いましたが……。

堅谷 育って、それで東京に出てきて、そんな仕事をさせてもらうのですから、本当もうあ りがたくて涙が出そうです。感謝しています。 そうですね。ありがたいことです。電気も通じていないような片田舎で生まれ

塩原 私も友だちが多い方だと思っていますが、なかには人がみんな遊んでいるとき

でも努力して、小銭を貯めて会社をつくった人もいます。ですが、堅谷さんのように、

日々の努力はしたが、周りの人たちに何となく、押し上げられて起業したというのは

これはいいお話ですね。私の周りには今まであまりそういう方はおりませんで

した。

堅谷 本当に恵まれているなと思いますよ。それは出会いなのかなと思っています。

温原 出会いですか。

堅谷 出会いが本当、大事だなというのがあります。

自分であまり努力しなくても、人様が持ち上げてくれたというわけですか?

全くその通りです。その代わり、会社を閉めるときは苦労しましたけど(笑)。

だから世の中うまくできているなあと思っています。

塩原 所懸命おやりになり、普通の大工さん仕事で終わっていないという経歴ですよ 堅谷さんにとって後継者の問題は予定外だった。でも、 この経歴書を見ていく

事で終

ね。

しようですとか、業績とかいう考えはありませんでしたね。 実際やっているときは、全然そういうつもりはなかったのです。事業を大きく

塩原 堅谷 売り上げのピークが大体、年間5億円ぐらいありました。だからそのくらいに 一番の売り上げ時はどのくらい行きましたか?

の間はそんなに大きくしてどうこうという意欲は、あまりありませんでした。

なったとき、もしかしたら、もうすこし頑張ろうかという気持ちが出たぐらいで、そ

塩原 当然そのときはかなりの額の税金を納めていましたでしょう?

堅谷 いれば節税対策ができたと思いますが……。 そのときは税金だけで約2000万円も納めていました。中間決算でもやって

塩原 いたら彼びっくりしてしまいまいすよ(笑)。 万年赤字決算と言っていました。ですから2000万円の税金を納めたなんて話を聞 ご立派です。私の友人が二級建築士で不動産事業もやっている人もいますが、

7ヶ所ぐらい持って、それを建売りにしたとかもしておりました。でも、借り入れは それがピークで、その後はバブルですね。その頃は土地のブームで地所を6~

ピークでも1億2000万円ぐらいでしたから、まあまあそんなに多くはないと思っ

ています。

塩原 バブル経済が崩壊して、不動産が多少悪くなったときで年商はどのくらいでし

たか?

堅谷 3億円ぐらいからだんだん落ちていった感じです。

塩原 後継者の問題も大きかったでしょうけど、売り上げが下がったことによって、

これはまずいなと思ったというのもありましたか?

転売といいますか、売却して、借入をなくすことができました。ですから会社の借入 堅谷 ありましたね。でも、それが土地を6ヶ所持っていましたので、それをうまく

は、ほとんど全部整理できたんです。

う話も聞いたことありますけどね。いらないのに置いていってしまうとか(笑)。 塩原 バブル期には、銀行が口を開けてお金を突っ込んでいくようなことをしたとい

ばいけないということだったわけですね。住宅の10年保証しているから、10年間 1 0 年計画でやめようといったときが、後継者の問題含めて、これ決断をしなけれ

ね。 **堅谷** そうです。そうすればお客さんに対しても誠意と責任を尽くせるという形です 誰にも迷惑をかけない形で会社を閉じることができたと自負しています。

営業力強化のためにリフォーム会社を設立

塩原 工場新設ですとか、リフォームセンター設立ですとか、あの手この手やっていますよ しかし、単なる工務店だけではなくて、ダスキンのフランチャイズ店ですとか、

織でダスキンFC店をつくったんです。そのダスキンを独立させて、株式会社城北リ すけども、その人に任せようと思っていたんです。ところがやっぱり、彼は自分でや 切れ者で、この人を社長にしようと思いました。一応、私が社長でスタートしたので を野口さんから八起会にいたKさんを紹介していただきました。Kさんは頭もよくて、 ちもという状態でした。それで株式会社城北リフォームセンターをつくり、その社長 余裕がなくなってしまって、二足のわらじ式になり、能力がないのに、あっちもこっ フォームセンターにしたわけです。やっぱりアンテナショップで片手間にやっている 部分なんですね。そのために、アンテナショップ的な考えで城北リフォームという組 ね。 結局、会社を維持していくのは、われわれとしてはいわゆる営業が一番苦手な

りたくなったのでしょうね。

雇 見われマダムではまずいということでかね。

塩原

堅谷

力をうまく使えないというのは、私よりも能力が上だったということだと思います。 それでこれはまずいなというので、Kさんを社長にする話は無しにしました。一応

ですから、Kさんにはそれだけの能力があったと思います。私がその人材、

能

社員として2年ぐらいやってもらいましたが、やはり私としても使い切れない部分も

ありました。

塩原 建築関係の方だったんですか?

堅谷 後に建築関係をやっていたという話です。だからある程度ノウハウも、この程

度かというのも分かったのではないかなと思っています。

塩原 八起会の野口さんが紹介してくれたのですか?

Кさんも八起会に入っていた

わけですか?

塩原 はい、Kさんも会員で、私もよく知っていたんです。 でも、堅谷さん自身は、八起会に入るというのは、講演に行って、話を聞いて、

そういう会に入って勉強しようと思ったんでしょう? そのKさんは、一度会社をつ

ぶしているのではないですか?

堅谷そうです。つぶしていますね。

塩原 ここがポイントなんですよね。八起会の同じ参加メンバーでも、会社を倒産さ

なくて、経営者として倒産させてはいけないから、そのことを事前に勉強しようとい せてしまって、 何かいろいろ相談事や再起を模索しようと思っている人と、そうじゃ

う人、二通りなんですよね。

堅谷 そうかも知れません。

塩原 現在参加している人たちの中でも、こういうお話を伺うチャンスがあると、や

はりそういう二極に分かれますね。私も堅谷さんと同じで、経営者は経営の常で倒産

傷あって、八起会に勉強に来ていたり、 という失敗を勉強しておかなければいけないということで参加していますが、すねに いい話ばかりではないみたいですね。でも、

実害はなかったんですか?

ありませんでした。何かお金をちょろまかしたとか、それはなかったですね。

その後、 に勤めていたのですけども、自分で仕事をしたいと思っていたようでした。それで城 と思っていたんですが、幸い私の女房に弟がいて、彼の兄貴がやっていた会計事務所 城北リフォームセンターという会社をどうしようかなと……。やめようかな

北リフォームセンターを義弟に譲りました。

実際には分割で200万円ほどもらっていましたけどね。それ以来ずっと城北リ

塩原 素晴らしいですね。

フォームセンターは続いています。

常勤役員をなっています。今年で3年になりますけども、 堅谷 2018 (平成30) 年3月でちょうど3年になりますが、結構よくやってもらって のですが、彼女に社長になってもらいました。その女性社長を補佐する形で私が非 フォームセンターをどうしようかというので、従業員として働いていた方、女性な でも今から3年前に彼が肺がんで亡くなってしまったのです。それで、 取締役をやっています。 城北

会社も業績が結構上がりました。ですから、もう3年間で私はやめるよと一応言って

ありますけど……。

塩原 城北リフォームセンターとは、もう全然資本関係とか、 お金を出資したとか、

そういうことは今ないわけですか?

堅谷 ありません。義弟も一所懸命やっておりましたし、割合地盤を強固にしてあっ

たものですから……。

塩原 年でちょうど3年だから、役員を退くと……。そうすると、「無冠の帝王」にな そうすると今、城北リフォームセンターは、 新しい女性の社長でやって、 平成

るわけですね(笑)。

3

堅谷 つぽっくり逝くか分かりませんからね。いくら元気だといっても、やっぱり年齢が年 まあそういうことですね。こういうことは早目にやっておきませんと、 私がい

塩原 しかし、堅谷さんお元気ですよ。 齢ですから。いつ何が起こるか分かりませんでしょう。

おかげさまで、それがもう本当、何よりも救いです (笑)。

塩原 やはりそれは堅谷さんの趣味である山歩きとゴルフが生きているのですかね。

どうなんでしょうかね。

塩原 山歩きなんてまさに足の世界ですものね。ゴルフというのは、どういうきっか

けでおやりになったんですか?

堅谷 仲間がいたからでしょうかね。

塩原 ゴルフ自体が仕事にプラスになったということはありますか?

堅谷 仕事そのもののプラスはあまりないですね。ただ、仲間ができるというか。

私も人づきあいが上手ではないものですから。 堅谷 あまりネチネチしない、割合さっぱりしたというか。そうではないと、

あまり

塩原

い仲間ですね。

塩原 きたりすると終わってしまいますものね。知り合いに会社を倒産させた人がいて、そ 友だち付き合いというのは、いい面と悪い面があって、お金の貸し借りが出て

いったら、「マージャン友だち」だったということでした。賭け事のつきあいだった の原因は友だちの連帯保証をさせられたと言うものです。どういう関係の人間 かと

のです。ゴルフだったら健全ですね。ある程度、今日明日の飯を心配しなくていい人

がやっているだけですからね

ね。一般の人の倍以上はいろんな人とは

般の人の倍以上はいろんな人と付き合っているつもりですけど、本当にご立派です

堅谷さん、私はあなたを本当に尊敬します。これまでいろいろな人に会いました。

人とのつながりがあったから、60年続けてこられた

塩原 ところで、 冒頭、起業のお話を伺いましたが、 起業当時のお話をもう少しお話

ししていただけますか?

堅谷 ていただきました。結果、 仕事を頼まれたんですよ。そうしたらそのマダムから、朝日新聞の記者さんを紹介し 仕事を一応させていただいたら、お客様は女性で、スタンド式のコーヒーショップの その会社から離れてやるということで、私に一つ仕事を紹介してくれたのです。その のです。そこにいた監督さんが、独立ということでもないんですけども、別に仕事を 前回の東京オリンピックの仕事始まったとき、勤めていた建築会社が倒産した その新聞記者さんに家を建てさせていただきました。

を**塩原**面白いですね。

堅谷 ました。 本当に面白いですよ。人のつながりで、千葉県に新築一棟やらせていただいき これが初めての仕事です。

塩原 初めての仕事が元請けだったのですか?

住んでいませんが……。その一戸建て住宅だけは、残しておくと言われましてですね 堅谷 現在は、ご当人は亡くなってしまい、奥さんやお子さんたちも他に移り住んで、 そういう、何というのでしょうか、神がかりみたいな出会いを感じます。本当に出会 たということを載せたのですね。それを読んだ方から2件ほど注文が来きました(笑)。 (笑)。いやもう、駄目になるからつぶした方がいいですよと言ったのですけど。新聞 いは大切だなと思っています。今でもその新聞記者の方の家はまだ残っていますよ。 はい、元請けでした。それに新聞記者さんですから、社内報に自分が家を建て 誰も

塩原 すごいお話ですね。魂が入っていますね。

記者さんの遺言に「残せ」って書いてあったとかで(笑)。

たようで、有志の方が集まってそれを全部完成させて、それを私も昨年の6月に頂き **堅谷** そうしたら、その方が亡くなった後、「自分史」を書きかけのまま途中で亡くなっ

ました。

塩原 史が半ばで、それでぽしゃってしまえばそれだけですけど、ご縁がある人が協力して それも人の縁というか、人間というもののありようというのでしょうか。自分 えるとき、大変役立つ冊子になると思います。

完成させたのですね。素晴らしいお話だと思います。 ありがとうございます。

塩原 自分史つながりの話になりますが、単なる自分史というのは、自分だけのこと

ですけど、この企画している冊子は国会図書館にも納められる本です。本屋さんでも

るでしょう。現在は大廃業時代とも言われています。ですから、事業経営の出口を考 人たちが起業したり、経営したり、そして会社の始末を考えるときに、どうすればい 販売されます。また、電子書籍としてお求めいただけます。そうすると、やはり若い いみじくも言っていただいた「時代が味方する」ことですよというメッセージが伝わ いんだろうと思ったときに手に取る本でもあります。読んだときに、今日堅谷さんが

自分一人が頑張ったところで、とても大願成就とはいきませんものね。もう一つは、 それと、堅谷さんの仰った「人は出会い」ですね。人との出会いがどれほど大切か。

堅谷 そうですね。これだけはやっぱり肝に銘じておかないといけないと思います。 何でもそうですけど、早目に手を打つということですね。

逆に、 入ったとき出口を見ておくというか。何かそんな気がします。

塩原 私が当初にお話した、これから起業する人は、やっぱり出口のことまで思いが

いかないと、大変なリスクになりますと……。

堅谷 私もそうだと思います。

塩原

建築関係のお仕事をされてきて、

経営全般について特に思い当たるところがご

ざいましたら、少しお話ししていただけますか?

も成り立ってきたんだろうなと強く感じます、今でも付き合いをしている協力業者さ かない所を、そういう業者はちゃんとやってくれるから、非常に安心というか。 たというのが非常に大きいと思っています。これが自分でできないというか、 建築という業態には協力業者が何十といるわけです。私はその人たちに恵まれ 目が届 経営

塩原 社の非常勤役員ということでのお付き合いですか? でも、 建築会社自体はほとんど身を引いていますでしょう? リフォームの会

んがいます。

堅谷 いえいえ、堅谷工務店時代の関係です。

塩原 現在の仕事の関係ではなくてですか?

ような形でまとめて、せめてもの人のつながりを大切にしたいとの気持ちでお渡しし にお手紙というか、 今でも仕事が来れば紹介するとか、そういう関係はあります。それらの人たち 近況報告だとか、そういうのを一応「かたや通信」という新聞 0

塩原 ることやっていますが、堅谷さんみたいな年齢とお立場で、社会とは関係が薄くなっ てもおかしくないようですけど……。 私も同じように、自分自身の近況報告をするというのは、常日頃は心がけてい

ています。

たからです。 があるわけですからね。それを自分で最後は一人でできたというのは、協力業者がい リフォーム頼まれても、自分では木工のことしかできませんが、電気や水道というの やはり自分でできないことを人にやってもらうという形がとれましたからね。だから、 会社を閉じる10年間はスローダウンでだんだんなくしていきましたが、その中でも **堅谷** やっぱり生き残ってこられたのが、あのような人たちの協力があったからです。 最後の10年続いたわけですからね。

塩原 近況報告は協力会社だけですか。個人的にゴルフのお友だちですとか、そうい

う人にも届けているのですか?

最終的には知っている人。今お付き合いしている人は30名ぐらいですが、

12名だけに送っています。

塩原 人とのお付き合いを大切にしようという姿勢がちゃんと出ていますね。今は何

かあっても電話で済みますものね。

ことを言っていたから、声かけてみろよとかね。 **堅谷** そうですね。あそこでこういう話を聞いたから、行ってみようとか、こういう

塩原 ていたんですけど、これらの近況報告はパソコンで作っているのですか? いただいた経歴書やプロフィールを拝見しますとパソコンできちっと整理され

ええ。城北リフォームセンターでも月2回、新聞を出しています。自分で「新聞_

とても間に合わなくなりました。大したものではないんですけども……。 という名前をつけただけの話なんですけども(笑)。前は毎週出していたんですけども、

塩原 では、パソコンで文書を作ったりすることは、少なからず日常性があるんです

ね。

堅谷 まあまあ……。

塩原 素晴らしい。その新聞はお客様に配っているんですか?

城北リフォームセンターの社内報みたいな感じです。

15名ぐらいに月2回発

行しています。

堅谷

塩原 社員の人がお客さんの所に持っていくということではないんですか?

持っていかないと思いますよ(笑)。発行するのは自分の勉強のためというか、

頭も使いますしね。

堅谷

塩原

ところで、どのような内容なのですか?

堅谷 「タネまき新聞」という名前をつけています。これは、ダスキンの創業者の鈴

ちょっと拝借しています。内容は、座右の銘の解説とか、こういうとき使うんだよとか、 木清一さんの文章の中で、タネまきという言葉がいっぱい出てきているので、それを

塩原 今週の言葉ですとか、PHPから抜粋したりとかしてA4判1枚にまとめています。 社内報的なものと、お友だちに渡すものは、同じものではないのですね?

堅谷 同じものではないんですけども、同じような方法で作っています。

塩原 ということは、月2本?

堅谷 そうですね。とにかく何といっても人に恵まれたということだと思っています

から、 関係を大切にしたいと考えて、新聞も作っています。

塩原 たりするタテの関係の人との出会い、それと協力会社のことも含めて、ヨコのつなが いる人も随分いますからね。 りが大切だということですよね。外注先を泣かせて成り立っているような商売をして 人に恵まれた。お客さんを紹介してくれたり、いろんな意味で助言をいただい

堅谷 そうでしょうね。特にこの建築業界というのがそういうのが往々にしてあるん

ですね。

なお付き合いの終わり方をしたいなと思っています(笑)。 だからお付き合いだけは、お客様が「あそこに頼んで失敗した」と言われないよう

塩原 悪い話はすぐ足がついて走っていきますからね。

後継者決定までは、紆余曲折があった

塩原 題により、 これまでのお話しで整理させていただきますと、工務店の後継者のご病気の問 10 年計画で会社を終うということ。それと並行して、 城北リフォー ムセ

ンターを設立していたわけですよね?

折に、 た。 その後、 社城北リフォームセンターとして独立させて、2年ほど社長を兼務しました。これも 作業量や管理が増えて両方のことをやるには手一杯となり、そこで清掃部門を株式会 ました。 ところがしばらくして間の悪いことに彼が重い病気となり亡くなりました。 彼が自分の代わりに女性社員に事業の継続を以前から頼んでいたことを知りま 遺言みたいに「俺が死んだら、あの子にやらせてみてくれ」と言われたようです。 工務店を経営しつつ、事業を拡充するためダスキンのFCとして一部門を設け その事業はレンタルマットはやらず、一般家庭の清掃が主でした。 私自身が工務店の仕事に専念するため、 家内の弟 (義弟) に社長を譲りまし しかし、 その

城北リフォーム

それでその人になったわけです。会社も隣り合わせて、堅谷工務店、

から私が指名したのではなくて、彼が死ぬ前にそういう話をしていたということです。 るから、もうとにかく面倒見るというか、協力してやってくれというので……。です センターと並んであるものですから、私がちょうどその創業者でもあり、近くでもあ

10 '年計画で閉じた。それでうまくいったということですね。

今はそこの非常勤役員をしているということだけですね。あとは堅谷工務店を

塩原

堅谷 そうです。本当にもう今、夢みたいなことですよね。最後まで売るか、生かす

塩原 その土地は法人で持っていたんですか?

か、悩んだ土地を昨年1月に売却できましたし……。

ないと (笑)。 いえ、それは個人名義でした。ですから、それも売却して、あとはあまり残さ

塩原 さすがですね。いいことですね。

相続の話は大変ですよね。人間というのは、若いときは、人の3倍も5倍も働 土地で残したらロクなことがないというか、 後々困まりますからね (笑)。

いて、世間より少しいい生活したいと思ったりするわけですよね。いろんなことがあっ

148

【だれにも迷惑をかけない廃業をめざした】 か、 塩原 親からもらったこの身体、ありがたいなあという気がします。 れでもいわゆる根幹というか、体の幹がしっかりしているから健康なのかなと(笑)。 親からもらった身体というか、これが元じゃないかなという、そんな気が私はします。 合わないで相続が発生してしまうと、後処理が大変ですものね。 なくなるから、早く処分しちゃおうとかというのは、間に合えばいいわけです。 だと思います。そういう発想は大切ですね。ですから、土地持っていて、 うにしておこうという気持ちになりますよね。「間に合う」ということは大切なこと ある程度、 毎朝歩くのは、今でもやっていますけどね。 歩数も測っていますか? それが私も不思議なんですよね。不思議というか、これはもともとやっぱり、 別にどこでどうしたということはしていませんでした。だけれども、そ 朝4000歩、一般的な歩きが大体2000歩ぐらいでトータルで 、70歳も過ぎますと、自分が目の黒いうちは、 あと、 何も波風が立たな 健康法というの ロクなこと

間に

いよ

6000歩。それと、今は週1回に卓球を2時間やっています。それから足立区がやっ

ている自宅近くジムに週2回通ってマシンとかやっています。

塩原 理想的ですね。身体を動かすことが全然嫌ではないようですし……。

堅谷

わかります(笑)。本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございます。

そうなんです。じっとしていられないんですね。

塩原

|政男のある日ある時②||~オリのライオンとキツネ||イソップ物語より~

(平成30年2月10日 かたや通信 第103号より)

オンに向かって、こういいました。 オリの中に入れられてしまいました。そこにキツネがあらわれ、オリの中のライ ライオンが森を歩いていると、ワナにかかってしまい、人間に生け捕りにされ、

た知恵もないくせに、今までずいぶんえばってきたもんだ」キツネにバカにされ 「人間のワナに簡単にかかってしまうなんて、キミも本当にバカだね。たいし

ライオンは、こう思いました。

バカにしたりするものだ。まともに相手にすると腹が立つから、こいつのいうこ とは無視しよう」と。 「世の中、運の悪いことがあると、それに付け込んでひどいことをいってきたり、

つまらぬ連中にまでバカにされることが多い」ということを解き明かしています。 このお話を人生に置き換えると、「どんなに偉い人であっても、逆境に堕ちると、

ことです。自分が「こうだ」と思ったら初志を貫徹する覚悟で邁進しましょう。 あなたの人生を決めるのは、周囲の人でなく、あくまであなた自身であるという また、他人の言葉に惑わされ、一喜一憂してはならない」ともいいます。

えば、気持ちが楽になるはずです。 他人の自分に対する評価、すなわち噂や陰口が気になる人は、プラスの発想を行

誰からも噂されず、陰口も言われないというのは、誰からも相手にされず無視

でしょうか。「周りの目を気にして、自分を押し殺さない」ことが大切です。 くも悪くも、それだけ意識され、注目を浴びている証拠だと、解釈したらいかが されている証拠です。他人があなたの噂をしたり、陰口を言ったりするのは、良

第 3 章

【私の近況報告】

かたや通信・小嶋正氏『自分史』より

また、

第138号)に掲載していた「私の近況報告」の内容を取りまとめたものです。 本章は、『かたや通信』(平成29年10月10日第101号~令和4年7月31日

ジを読者の皆さまにお伝えする意味で、原文に沿った形で編集しております。 ます。日々の気づきをまとめた内容であるので散文形式ではありますが、日常の 会社を廃業してから、日々どのようなことを考え、取り組んできたかを綴っており 晩年の

堅谷政男がどのような日々を過ごしてきたかを感じ取って頂けると幸いです。

本章には恩人・小嶋正氏の『自分史』の内容を一部収めております。

千葉で

える内容です。あわせてご一読頂けると幸いです。 の家づくりの様子が克明に記されており、堅谷政男の大工としての仕事ぶりが垣間見

●会社の廃業から早2年

(平成30年2月10日 かたや通信第103号より)

卓球、 そうでぃ~す。奥さんはあきれていまーす。こんなことでよいでしょうか。仕事を一 書き出してみました、身体のため散歩とジム、パソコン教室、自分史を書く、ゴルフ、 と模索の日々を送りましたが、最近少しずつ見えてきました。まず、やりたいことを た砂が残り少なくなって、わずかだけど残りはまだある。落ち切るまでに何かしよう だと思いに至りました。人生は「砂時計」のようなものだと言います、一杯入ってい 老いへの道かと改めて考えてみると、残りの人生をいかに有意義に送るかということ 日々、本を読み、老人センターへ通い、月1回のゴルフ、月1回の医者通い、これが 月で退職、仕事から解放されたけど、何かすっきりせず、ウロウロしているばかりの 早いもので廃業をして2年、シルバー人材センターの仕事も腎盂炎を患い29年7 将棋、ペン習字、等々認知症にならないためにも出来ることはなんでもやって 時間はある、ないのはお金だけ、さあ!どうする。仕事の時より忙しくなり

生懸命やっている方々には申し訳ないですが。ではまた……

●満82歳になり、思うこと

(平成30年4月10日 かたや通信第104号より)

をしていたのではないか、それよりも一日一日を攻める気持ち(生きる限り学び、体 みると、健康で長生きのことばかりを考えてガード一辺倒(医者・薬など)の生き方 が、年齢のことを忘れ、夢中になれることは何かないか、生きて何をするかを考えて を改めて考える機会をあたえられた思いでいっぱいである。そして、思いついたこと 説から言うとちょっと早かったかなと、残念な思いがする。 平均寿命が80歳だと言いますが、最近マスコミが盛んに報じている、 もちろん長ければよいと言いうものでもない、この二人の死に接して、自分のこと 今年に入ってから二人の友人が亡くなりました、寂しいかぎりです。 日本人男性の 1 0歳人生

を動かし、

食事をしっかりとる)、そして誰かの役に立つことを心がけて生きること

が大切なような気がします。

逝くために。 与えられた人生を心して過ごせるのではないかと思う。後悔せず、覚悟し、穏やかに れる死と向き合うのも元気なうちにこそ、しっかり向き合っておくことが必要ではな 人々(奥さん・家族・友人など)への感謝の気持ち忘れず、自分の老いや、いつか訪 いかと思う。せめて自分はこう死にたい、葬られたいというビジョンを持っておくと そして、自分のやりたい楽しいことを求めつつも、長い人生の中でお世話になった

●終活に思う その1

(平成30年6月10日 かたや通信第105号より)

ことにより死は避けられないことです。いつかは誰でも死が訪れるものです。その死 まだまだ先のことだと思っていたのですが、よく考えてみると、生まれた 人生終わりの活動ですが、 最後の人生を有意義におくる活動でもあると

に対して、真正面から積極的に向き合っていくことが終活の大事なことではないかと

思うようになりました。

人になってくれた叔父、一人では越えられない山、谷を支えてくれた家族 墓 ことがこんなに大変だとは思わなかった。ものは考えようだという声もあるだろうが。 残された家族にとっても大事なこととなるのではないだろうか。 この世に生まれ82年間をふり返ると、産んでくれた母、育ててくれた祖母、 今からお迎えが訪れるまでの間を悔いのない自分らしい生活を全うするため、 -遺品整理-−相続─等々、考えるとやることの多いことに啞然とするばかり、死ぬ 介護 **--医療** (特に妻)、 葬儀 また

月であったことが、ただただ有難く、感謝、感謝の日々です。 仕事を支えてくれた多くの人々、仕事を与えてくれた方々に支えられ、助けられた歳

お迎えが来るまで精進して待つ覚悟です。「終活は元気な時に始めよう、遺される家 私 「の終活はこれからが本番です。 悔いのない「飛ぶ鳥、後を濁さず」を目指しつつ。

族のために」

終活に思う その2 お墓、 エンディングノート

(平成30年8月10日 かたや通信第106号より)

完成しました。 スになると感じ、小さなお墓を買いました、墓石には「ありがとう」と入れて5月に 生きている何年かが、何となく落ち着かない日々が続きそうで、残りの人生にマイナ のが何となく寂しく感じ始めました。(死んでしまえば何もわからないわけだけど) を退き、真剣に死というものについて考えるようになったとき、自分の居場所がない 私は本来無宗教であり、 お墓も無用と考えていました。しかし、80歳を過ぎ現役

族に迷惑をかけないようにしたいと思います。 た。この先は健康第一に寝たきりにならないための工夫と努力を惜しまず精進し、 これで未来の居場所も決まり安心し、まさに生まれ変わったような気分になれまし

そのため、エンディングノートを書くことにしました。自分の生き方、考え、希望、

命保険、などの契約内容、延命治療の選択等書いておけば、のちのちのトラブルも避 産のリスト、病院や日常生活の覚書、葬儀の希望や友人リスト、年金や健康保険、 言い残して置きたいことなどを、家族に分かりやすく伝えるため、遺言、不動産、 生 財

にの頃です。

けられると思われます。

をもっと膨らませ、自分史の制作まで行けたら最高の人生になるだろうなと夢見るこ

終活の全般をサポートする役目を果たしてくれそうです。

●運転免許証の返納を考える

(平成30年10月10日 かたや通信第107号より)

あっても、公共の交通機関やタクシーなどを利用すればいい」と思う。 事者はもとより、家族や社会に多大な迷惑や不幸を生んでしまう。「少々の不便さは ろそろ運転をやめようかと考えるこの頃です。事故は起こしても巻き込まれても、 最近多発している高齢者の自動車事故の報道を見聞きするたびに、心配になり、 当 そ

なり、 車のある便利な生活を選ぶか、全体の安心を選ぶかという思いと、自分の身の回りに 反面、 時間的に制約が出来たりして、自由と楽しみが失われること。等々、考えると 運転免許更新時の検査では問題なく、生活上の必要もあり、行動範囲が狭く

不安や危険が迫っているという現実にどのように折り合いをつけるか迷う。

思うに、高齢になると今までの健康、元気と老いの区別がつかなくなるようです。

まだ大丈夫、まだ大丈夫と思っていることがあります。一度立ち止まって、昔のこと

を思うと不便も納得できそうです。

の日、 結論、常に健康・運動・栄養に留意し、安全運転の励行、 夜) は、 しないことを守り、令和2年3月をもって免許証を返納することとい 無理な運転 (遠乗り、 雨

▶私の平成30年を省みる

たしました。

(平成30年12月10日 かたや通信第108号より) 第3章 【私の近況報告】かたや通信・小嶋正氏『自分史』より

集まって過ごしたが、妻が何かと大変な思いをするので、 んなで楽しく過ごせて、いい思い出で至福を感じた年初めのスタートとなった。 思い切って鬼怒川温泉・ホテル三日月に予約していた。正月料金であっ 年齢も考慮し、 観光も兼ね たが、 4

*

毎年恒例

の年始の集い(1月2日)

は、

狭い我が家のマンションに総勢10人が

考える機会を与えられたような気がした。「人事を尽くして、天命を待つ」心境か。 告げてくれず、 い限りでした。その後、 * 2 月 1 1 日 、 ひっそりと認知症の奥さん一人残していってしまった。 定時制高校時代からの親友が亡くなり岩手へ、病気であったことを 同級生がまた一人この世を去り、自分自身のことを改めて ただただ、

精神的 その安心感、 無用論者だった私がなぜお墓を作ったのか、現役を引退しこの世を去るまでの年月の * 4月10日、どうしようかと散々迷った生涯の居場所 な問題と言いうべきか、なんとなく気になるだけのことだったが、創ってみて、 (俺はここで眠るのだという感じ) で満足しています。しかし、遺され (お墓) が完成した。 お墓

た者には後々墓守という重荷を残すことになり心苦しさも残る。

KPビルにて40年の歴史に幕を閉じ、そしてまた新八起会としてスタートとなり終 *7月8日、八起会40周年記念式典、本行寺にて野口会長のお墓参り後、上野T

着駅は始発駅の記念すべき日となった。

極暑もあって3ヶ月間ゴルフはお休みとした。 高周波カテーテル心筋焼灼術をすることになった。手術は成功し3日間の安静で退院、 *7月23日、かねてより狭心症発作があって診察してもらっていたら、心房細動

多の館、 リゾートしらかみ号、 9月27日、年1回の夫婦旅行、今回初めて東北の日本海側、 盛りだくさんの見どころ満載のいい旅でした。 白神山地、 十二湖、 津軽半島、不老ふ死温泉、 男鹿半島、 龍飛崎 立佞武 五能線

いです。

巻く思いです。言い足りなかったこと、 きますが、 サルタント、 ることになりました。『大廃業時代・創業社長の事業の継なげ方、終い方』経営コン * 10月27日、 自分自身の経験と思いは伝わったかなとこの出会いに感謝の思いでいっぱ 塩原勝美氏が出版されました。驚き、 事業廃業のインタビューを受けた記事が、 自分勝手なこと等、反省すべきことが見えて 感激、 恥ずかしさ、嬉しさ等が渦 活字となりこの世に残

の約 城から、 してハイキングが加わり、 * 1 1 1 4 キ ロ 郷土博物館、さきたま古墳群、 月 1 1 日 、 (2万5000歩) ハイキング同好会に入会はじめてのハイキングに参加、 感謝をしつつ新たなる年に備えたいと思います。 約7時間のウォーキングでした。老いの有効時間と 史跡の博物館、さきたま緑道、 北鴻巣駅まで 行田市忍

●私の2019年の展望

(平成31年2月10日 かたや通信第109号より) こで今年は次のような目標を立てて人生の充実を図りたいと思います。 名ですが、文字どおり元気で一生懸命に突き進む良い年にしたいと思っています。 思うと、今からワクワクする1年です。猪年といえば、「猪突猛進」という言葉が有 気に過ごせて、そしてまた若い日本人選手の活躍を東京オリンピックで見られるかと あったかと思うと、感謝の念で一杯です。日本人の平均寿命を3年も過ぎた現在も元 たら今の私はなかったであろうと思うと不思議な気がします。なんと恵まれた人生で に私は独立創業致しました。大変思い出深い大会でした。あのオリンピックがなかっ ピック大会時(1964年)にオリンピック関連施設の仕事に恵まれ,翌1965年 いよ東京オリンピック,パラリンピックが開催されます。思えば、前回の東京オリン 平成から元号が変わる今年、そして秋にはラグビーワールドカップが、来年はいよ

1 健康のためよく歩くこと(体を動かす)朝夕の散歩5000歩以上・週1卓球・ 私の行動5ヶ条「常に自分の目標と希望を持ち、老いに立ち向かうために」

月1回ゴルフ・月1回ハイキング・週1回ジム

2 何らかの仕事に従事し、だれかの役に立つことを心がける(家事仕事の手伝い、 5

アなど 予防のため、 簡単な料理も覚えよう)。ダスキンユアーズ・週2回お掃除朝のみ・介護施設ボランティ 3 読書 (勉強) すること、30~60分以上毎日続けること、脳の活性化認知症 1 週間 1冊本を読む。 図書館の利用、 新し い知識、

漢字ドリル、 計算ドリル等、 簡単な出来ることから、継続すること。 小学校の教材から、

服タンス2本)遺品整理、 4 身の回りの整理整頓、(エンディングノートの作成)。本の処分、衣類の処分 生前整理 洋

目標を継続できる夢と希望の1年であることを願い努力したいと思う。 自分史の作成、(パソコン自前で作成)。 無理せず、 背伸びせず、のんびりと、

83歳の誕生日を迎えて

(平成31年3月26日)

岩手の片田舎の貧しい農家の長男として生まれた私、 続いて弟が生まれたが病気の

その別れの辛さを母は大変つらい別れだったと後に何度も涙ながらに語ってくれたこ とのいさかいが続き、母子が生き別れとなり私は祖母に育てられることになりました。 村の病院で26歳の若さで亡くなり、 ため半年ほどで死亡、日中戦争のため中国へ出兵した父も病気のため間もなく退役、 、残された若い母親と3歳の私、 姑と嫁である母

とを思い出す。

ちはと思うと胸が痛む思いがする。生みの親より育ての親という言葉が身にしみる思 し切り働きながら勉強したい思いで東京へ飛び出してしまった。その時の祖母の気持 待を一時は受け止め大工の見習いに4年間修行したが、育ててくれた祖母の反対を押 貧しいこともあり厳しく、厳しく育てられた記憶しか残っていない。しかし、その期 一方、長男亡き後跡継ぎの孫として立派に育てたいという思いと期待から、 祖母は

そして先祖に感謝の日々です。実家はもうなく、墓参りもしばらく行っていない、な ワラビ、ウド、ヨモギなど山菜取りに行った頃が懐かしく思う今日この頃、故郷の山々 956年に上京以来63年間都会生活をしていると、 故郷の春に草木は芽をだし

んと薄情なことかと、深く反省し近々墓参りに行きたいと思うこの

族、 い尽くせない思いで一杯です。残り少ない人生を自分の役割を見出して、そこに全力 人生の最終コーナーに思うことは何と多くの人々の恩恵を受けてきたことかと、家 親戚、友達、特に53年間支え続けてくれた妻敦子には「ありがとう」のほか言

を尽くしたいと思っています。もう少しの間、よろしくお願いします。

●お墓参り二人旅

(令和元年8月10日)かたや通信第112号より)

たが、 の山河、 現役引退、廃業整理等で、 終活が進む今日、老い行くわが身を思うとき、やはり脳裏に浮かぶのは、 両親、 先祖、親戚、 お墓参りを久しく怠っていたことが、気になっていまし 友人、多くの人々のことです。そこでいたたまれなくな 故郷

り岩手行きを決行しました。

6月12日歯医者の治療を終わらせ、

上野駅より14時6分発の新幹線で八戸駅

17時5分着、 予約をしていたレンタカーに乗り換え義妹の家へ (青森県三戸郡階上

町、 八戸駅より20キロ) 夕食を共にし、JR八戸駅ホテルに一泊する。

すること約50分で田野畑着、三陸復興国立公園、 時間半で到着、久慈駅(NHK朝ドラ『あまちゃん』の舞台となるJR終点駅)ここ 1時間半の滞在ながら絶景の一端を感じ、もう少し時間がほしかった。 で観光見学のためレンタカーから三陸鉄道に乗り換え、 6月13日8時にレンタカーで故郷岩手県久慈市へ深緑の山間の道約60キロを1 田野畑村北山崎の断崖美を見学。 断崖絶景が続く海岸美を見学

お参り(2018年2月没)後、ご家族のおもてなしを受ける。 墓参り、 久慈に舞い戻り、レンタカーに乗り換え、短時間ながら同級生と久しく会う、 親戚 (母の再婚先) の嫁さんのお見舞い、 実家の先祖代々の墓参り、 親友の 母の

ひと時、 6 月 14日10時親友の奥さんがいる施設に伺いました、会った時から笑い笑いの 喜びも悲しみも、 忘れたような至福のひと時でした。

事帰京することが出来ました。お天気にも恵まれ、思い出の数々をかみしめながらす **久慈の名物食、** 海鮮丼を食べて帰りは海岸線を八戸駅へ戻り16時半の新幹線で無

れないとの思いもありました。 べての人に感謝の3日間でした。 反省、

ます。

終活の一端が一つ解消されて嬉しく、もう一度行けることができるように願い

ながら。

の年齢を忘れた行動は相棒の妻があったからだと思います。これが帰郷の最後かもし 短い時間で親戚、友人、お墓2か所、観光と170キロ近い車の移動、 以後年相応のゆったりを心がけて生きて行こうと思い

自分

映画を観る

(令和3年10月)

* 11月3日コロナによる制限が緩和されたので、久しぶりに映画に連れて行くよ

と長男が誘ってくれました。 老後の資金がありません」というコメディ映画で、舅の多額の葬式費用、

大な披露宴、夫の会社の倒産等々で、お金のやりくりに奮闘する嫁

173

(天海祐希)

の姿、

娘の盛

ようかな?)。ポップコーンをつまみ、コーラを飲みながらの約2時間、 88歳の姑 (草笛光子)の生前葬のシーンは、とても面白かったです(私も参考にし 1年振りの

鑑賞は大変楽しいひとときでした。

*最近は体調が良く散歩数も伸びましたが、電動自転車の故障、冷蔵庫の故障、

ソコンの不調と、 家電等に老化現象?が始まっています。

らいました。 ら半分は社会福祉施設へ、残りを故郷の市へ寄付しようとか、色々、夢を見させても ジングのテレビCMを観て、妻と二人で、「宝くじが当たったら行きたいね!」と話 していたので、とっさに200円券を10枚購入。 *先日、買い物帰りに宝くじ売り場の前を通りました。前日の夜、 抽選発表までの一週間、当たった 世界一周クルー

*最近お年寄りの憩い場ができ、お喋り、将棋が指せて、脳トレ体操も参加できて

楽しみが増えました。

174

き、「かたや通信」を再開することができ感謝の念で一杯でした。

●令和3年を顧みる

(令和4年1月5日 かたや通信第132号より)

療と家族の支えに条件付きながら(訪問診療、 和ケアへ入院、 1月3日教会礼拝に参加。前立腺がん、抗がん剤治療拒否、終末期の到来と覚悟、緩 コロナウィルス予防のため家族全員での会食なしで始まった新年(私の体調不良も) 長期の入院かと思い「かたや通信」中止を決断。 訪問看護)で早期に退院することがで 病院の的確な徹底治

動悸) 不全、 家族の励まし、そして何か?目に見えない力が働いたような感じで、 て内心覚悟はしていたものの、不安が後を絶たなかったのが、医療関係者はもとより、 その後順調に回復基調になっていましたが、5月早々に心房細動の再発 高カリウム血症のため30日間入院。老いと病は容赦なく次から次と襲ってき のため心房粗動、 カテーテル心筋焼灼術のため7日間 入院、 後にまた7月に心 回復基調に変わ (息切れ、

りました。クヨクヨせず、病も老いも楽天的に受け止めて、楽しく充実した日々を過

ごす努力を続けようと心新たにしました。

か否かは難しいが、最悪な状態でそれぞれが懸命に協力し「共感」し最悪な状況の中 コロナ禍によりオリンピックが1年延期、なお収まらず、無観客開催、大会は成功

で無事閉幕できたことは日本人の誇りと言えるかな?

す。 分史という大きな目標に支えられ、総じて幸せな1年を過ごせたと言えると思いま くの苦しみと、しっかり向き合うことが出来たことにより、この1年は病も老いも自 いう人間がどのように生きてきたのか、何と多くの人々に支えられてきたことか。多 返り記憶をたどり、自分史にまとめる作業は、自分のことを客観的にみられ、自分と 本を読み、最もよいと思われる方法で乗り切ってきた過去。その過去を何十年も振り こんなこと、あんなこと、それぞれの事柄に向き合い、分からないことは人に聞き、 令和3年の1年を振り返っただけでも、前記のような沢山の出来事が繰り返され、 年の瀬に1年間頑張って支えてくれた家族、すべての方々に感謝です。ありがと

う……

ました。

●2022年をどう生きるか

総合病院で受け入れていただきました。検査の結果が判明せず、 見当たらず31日長女家族の助けをかりて、救急医療も難しい時期に運よく八潮中央 り即入院しました。1月4日まで食事なく点滴と水分のみで、 昨年末またまた体調不良を起こし29日に循環器の病院を受診したが悪いところが 隔離状態で新年を迎え たまたま高熱も重な

と考えられ、老化の進行の一端でもあると。 明を受けました。前立腺がんの進行と、栄養バランスの崩れによる、ストレス性胃炎 辛いながらも手厚い看護に支えられ、1月4日、家族立ち合いで先生から診断の説

安心感溢れる言葉だったが、家族に迷惑かけ翻弄させた8日間になんとも申し訳なく、 でも退院してもいいですよ。具合が悪くなったらいつでも来ていいですよと言われ、 「ゆったりと、のんびりと穏やかに」で過ごしましょう。具合が良くなったらいつ

メンタルの老化を痛感した年明けでした。

かに、大きな目標達成(自分史完結)のためこの年を大事に健やかに過ごしたいと思っ く似ていると家族も感心しています。この出来事をプラスに捉えて、のんびりと穏や るのを待っています、頑張ってね」と、似顔絵まで描いてくれたりしました。大変よ 何人かの看護師さんも見て話題になり、励ましの言葉をもらったり、「自分史が出来 を病院に持って来てくれて、懐かしく、恥ずかしながら主治医の先生にみせたところ、 家族が、1年前に同じような出来事があったことを思い出し、当時の「かたや通信」 でき、2月に発行予定の「かたや通信」の原稿作りと有効に過ごすことが出来ました。 私としては、有り余る時間と空間を有意義に過ごそうと、読書に励み、 2冊を完読

和食屋さんで。お互いによく持ちましたね、ありがとう。 た。今年は家族と一緒にと思っていたが、オミクロン株の猛威で2人だけで、近くの 1月26日56回目の結婚記念日昨年はコロナ自粛のため我が家でひっそり過ごし に行った。

●長持ちの秘訣

(令和4年3月26日 かたや通信134号より)

いた。 まり賛成できないと申し上げた覚えがある。そのことが長年の間、 注した新築住宅。 号の新築住宅が、 昭 和 先日2月6日、 40年北区中里での創業から今日現在まで57年。 10数年前、 当時のまま残っていることは知っていた。 体調と相談し、思いきって千葉市若葉区の現地へ息子を伴い見 空き家対策の相談を受け、 維持管理費が大変なのであ 独立 人生をかけた初めて受 一創業時の思い出深い第 気がかりになって

奮闘。 命20年と言われた時代の産物である。 ても初めての元請け。まさに真剣勝負。 施主 は若 御施主様に大変喜んでいただいた当時のことを思い出し涙した。新築住宅の寿 い新聞記者。 当然初めてのマイホーム。 特別に高価な材料を使ったわけではないが土 期待に応えようと現場に泊まり込み、必死に 田舎者の若造(当時29歳)にとっ

台、 工人が一丸となって取り組む住まいの『長持ちの秘訣』。 柱は国産の無垢材使用。接続金物は多目で屋根材は軽いものを使用。 竣工後は5年ごとの塗装工事など念入りなメンテナンスを実施。 住む人、 筋交いも多 施

●孫の成長とわが老い

ることといえば体をよく動かして全身の血行を良くし、 に臥すものだ。歳をとれば身も心もそれなりに衰えていく。老化への対策として出来 た。 にて意識混濁状態に陥り、緊急搬送されそのまま入院。退院まで実に約1ヶ月を要し 熱のため緊急入院し1月8日に退院。元気になって喜んでいた矢先の2月9日、 は高校へ進学。孫は皆それぞれ立派に頼もしく成長。私はというと昨年の大晦日に高 回りをきれいにし、物事を億劫がらずに実行すること。自分はもう老人なのだからと 病気なしの人生は望み得ない。重い軽いにかかわらず、人は一生に何回か病の床 一番上の孫(女)が大学へ進学、二番目(男)は高3へ進級、三番目(男) 筋力の衰えを防ぐこと。身の 自宅

感謝です。

さが、今回の長期入院で分かった気がする。病気を正しく理解し自分の出来る限りの 消極的に後ろ向きに生きるのでなく、前向きで積極的な姿勢であり続けることの大切

生き方を求めて、残る命の日々を充実させたい。

うかが心配ですが、わが人生の集大成として必ずやり遂げる所存です。 の読者の方々のお力添えで先が見えてきて感謝です。はたして自分の身体がもつかど 短いような、そして思い付きで始めたようなところもありましたが、「かたや通信」 つき合いは日に日に増すばかりですが、医療関係者、 知人の協力を得て自分史制作を本格的にスタート。 家族の協力により事なきを得て 思い立って約3年、 病、 長いような 老いとの

●見えない力

気力、

体力がガクンと低下し、ベッドで過ごす時間が多くなりました。

(令和4年7月31日)

書きたいこ

る方、ありがとうございます。お電話、お手紙の一言一言に「見えない力」というも たや通信」をお読みくださりありがとうございます。そして折に触れ、ご連絡くださ の私は、知人からの電話やお葉書お手紙に励まされて生き長らえています。いつも「か とがあるのに書けず、思いがあるのにまとまらず、もどかしい限りです。そんな最近 のがあるんだなぁと実感しています。「見えない力」に生かされています。

るんだな、愛されてきたんだな、そう感じられてとても嬉しい今日この頃です。 せだなぁ」。加山雄三さんじゃないけれどそう言わずにはおれません。生かされてい れない「見えない力」に支えられていたことに。なんと申しましょうか。「ぼかぁ幸 力を与えてくれる。元気な時には気がつかなかった。本当に気づかずにいた。数えき 「見えない力」というものがあって、今こんなに弱ってしまっている私に生きる気

頑張っています。大変暑い日が続き、コロナも収まる気配がありませんが、どうか皆 この秋口を目標に「自分史」の発行に向け、優秀な編集者の情熱に励まされながら

様ご自愛ください。

【小嶋正氏

『自分史』より】

●男の一生の大事

できちんと片付けてくれる若い大工さんがいる。一度会って相談してご覧なさい、 どに小さな改造・普請を繰り返すものだ。おばさんの細かい注文を、夜間の徹夜仕事 館に広いレストランを経営する身分になっていた。 いってくれた。 我が家のマイホーム作戦がスタートするころ、発展家のおばさんは三田の全専売会 料理店でも食堂でも、 店の造作な

家を二、三見てみたい、と希望した。 よ」と、おばさんにくどいほど言われている。念には念を入れ、堅谷さんの手掛けた る実直そうな人柄で、即座に決定しても良かったが「家を建てるのは男の一生の大事 の下で大工修業、一年前に結婚して独立経営を計画中という。まだ方言やなまりの残 堅谷政男さん、 岩手県久慈市出身、三十才(当時)。中学を出て上京、 同郷 の棟梁

沿線の二軒を回った。子細らしく家の造作を見学していたが、 待ち合わせの王子駅前に、堅谷さんは軽トラックで現れた。 助手席に乗って西武線 私の関心は堅谷さんを

どうぞ」と歓迎された。 「あら、大工さん」、「あら、堅谷さん」と笑顔で迎えられ、用件を告げると「どうぞ、 迎える家族の反応にあった。半年以上も前に完工した家というのに、どこの奥さんも

を決めた。 といい、やがて菓子袋を抱えて戻ってきた。私は安心してこの人に全てを任そうと心 どとつぶやいていたが、途中に駄菓子屋を見つけると「ちょっと待っててください」 二軒目を訪ねる時、彼は運転しながら「あそこの子供さんは幾つになったかな」な

■堅谷棟梁頑張る

炊しながら内部の造作に精を出した。千葉・小倉台の建築現場では堅谷棟梁の孤独な で棟上げを祝うと、以後は敷地内に早めに作った物置きに堅谷さんは泊まり込み、自 昭和42年6月18日、上棟式。ささやかながら尾頭つきの鯛が入った仕出し弁当

頑張りが続いていた。

堅谷さんはジョン、ジョンと可愛がっていた。 は紛れようが、夜は荒野の一軒家に住むに近い。いつの間にか子犬が一匹住み着いて、 我が家より1ヶ月ほど遅れて、お隣さんの家が着工した。日中はそれで何とか寂しさ 蚊取り線香などが置かれ、外には石を積んだ煮炊き用のかまどもしつらえられていた。 ば何でも詳しく説明してくれる。寝所にしている物置には夜具とトランジスタラジオ、 ても喜んでくれた。土台の基礎工事から要所ごとにスナップ写真を撮ってあり、 たがた見舞いに訪ねた。ジュースとパンを持っただけの陣中見舞いを、堅谷さんはと 旅がらすの私も、一、二回の休日(といってもウィークデー)に堅谷さんを激励か 聞け

地も盛り土ではなしに、小山を削って整地した場所なので、基礎は堅くて心配なしで 供たちにまつわりついた。公社が施工した石垣はなかなか立派に仕上がっており、土 堅谷さんの了解を得て、三人で一晩のキャンプを現場で張った。新しい木の香に包ま 子どもが夏休みになり、工事途中の家にも仮の板張りで床らしいのが出来たとき、 まだ骨組みだけの屋根から満天の星を眺め、 朝食には、堅谷さんの熱々の味噌汁が振る舞われ、ジョンが興奮して子 新居の姿をあれこれ想像しながら眠

す、と堅谷さんは胸を張った。

すが、 課だった。 とつずつ明るみに出てくる感じだった。近所の奥さんの話によれば、堅谷さんは朝が る重い口を開かせると、ポツリポツリと話す中で、彼の暮らしや付き合いの周辺がひ ちゃんとやってくれる。「予算の中ですが、主な柱はヒノキです。天井板は張り物で だから支払いはいつでもいいですよ、と図面に従った切りこみなどの下ごしらいまで 大工時代の信用で、 かまどに火をつけてから、出来かかりの家を四方から腕組みして眺めるのが日 杉の柾目です」、自分から進んで話すことはなかったが、岩手なまりがまだ残 夜も遅くまで電灯をつけて黙々と仕事をしていたという。 例えば用材の手当に材木店へ行くと、店主は堅谷さんなら安心

が証明されることになる。瓦屋根の被害は、瓦と瓦職人の不足で、半年以上も青いシー 調べてみたら千葉地区には瓦職人が少なくて、 村が多いせいかスズメが多く、瓦屋根に巣を作られるとすぐに傷みが広がる。その上、 屋根に瓦を乗せるかどうか、堅谷さんが相談にきた。彼の観察によれば、周りに農 結局、 トタン葺きに落ち着いたが、20年後の千葉沖地震で彼の先見の明 補修に手間暇が必要以上にかかりそう

で当方は造らずに済みましたから○○円、

トが被せられていたまま放置されたのである。

をあげて自分の説を順々に説く堅谷さんに全幅の信頼を寄せていた。入居後、 点まで何度も打ち合わせをしてきたが、 いことであった。 点の不満もなく、 彼のモットーは誠実というに尽きる。長男には誠と命名した。設計段階から細かな ひたすら感謝の毎日を送れたのは、家族の精神衛生上も素晴らし 壁紙の色ひとつでもないがしろにせず、 施工に 理由

●新居入城

して、 万円少なくて済みましたからお受け取り願います、との想像を絶する申し出であった。 新居への引っ越しは、 堅谷さんが訪ねてきた。 1 9 6 7 神妙な顔つきでいうには、何と請け負った工費より数 (昭和42) 年8月20日である。引っ越しを前に

1ヶ月遅れて着工した隣家の大工が親切な男で、仮設トイレを使わせてもらい、これ

風呂桶を物色に行ったら「御宅が初の客で

とした。何と言っても引き下がらないので、根負けしてとうとうその余剰金は受け取 細書まで付けている。ほとんどが堅谷さんの人徳によるもので、こちらはしばし茫然 すから」とTOTOの某支店で歓迎されて値引きしてもらったのが☆☆円− り、後日、建築関係の資料や建築士試験の参考書などとして堅谷さんに進呈すること 一と、明

になった。

年になる我が家の住まいの憲法である。 ら屋根のペンキ塗り替えまで、何でも堅谷工務店にお伺いしてからが、新築以来30 された紐は柱に沿って、垂直に一直線を描いていた。家の普請、 「小嶋さん、ご覧になってください。1ミリの狂いも出ていません」と言った。吊る は、建て増しする壁面の高い場所にピンで紐を止めて下へ垂らした。にっこり笑って、 たが、ちょうど休暇も取れて私は家にいた。5年前の設計図を片手に現れた堅谷さん 緒に住めるようにとの準備だった。増築の棟上げは簡単にやりますからという話だっ から予定はしてあったが、故郷の父母の年齢を考え、どちらか片方が欠けた場合に一 5年後に裏庭の鉄棒と砂場をなくして、一部屋増築することになった。 改築、 細か 設計の段階 い造作か

●政男のある日ある時③ ~私の趣味の功罪~

(2020年11月)

誰も見ていなければボールを動かすなどのズルをすることもできるので、自分の 歳で社屋完成、会社の設立で一段落の頃、材木屋さんに誘われてゴルフを始めた。 て楽しむことができる。半面、審判もおらずジャッジするのもすべて自己責任。 を追い汗かき、クラブハウスでの食事の楽しみなど、他の多くの趣味やスポーツ 30代は趣味らしきものがなく「仕事です」と答えていた(余裕がなく)。35 では味わうことのできない魅力、加えて年齢も性別も関係なく仲間が一緒になっ て緑と青空のもと四季折々の美しいゴルフ場をハイキングのように歩き回り白球 当初遊び半分であったがだんだんと魅力に目覚め、日々の忙しさ雑踏から離れ 堅谷さんの趣味は何ですか? と聞かれれば、10代卓球・20代山歩き・

用かがうかがえる).40代にテレビ番組で安田春雄プロと出演放映されたこと、 く85歳、元気なようで病と老いには勝てず、2020年をもって引退します。 心との戦いでもあり私にとってとても新鮮で、こんな魅力にとりつかれ何年か中 と大変貴重な体験だったことに驚いている。数えきれない沢山の良き仲間、 70代でホールインワン達成、しかし、その時は全然嬉しくなかったが、今思う わがゴルフ人生に悔いないけれど、嫌な顔せず送り出してくれた妻に感謝、 止した時期があったが約45年間私の数少ない趣味を保ってくれました。間もな ベストスコア84(45年間ゴルフやって84がベストスコアとはいかに不器 感謝。 沢山

が、楽しませてもらってありがとう、と言うことにしたいと思います。 3つ所有、2つは処分できたが1つは処分出来ず、バブルのつめ跡が残っている 1973年のゴルフブーム、バブルに遭遇、ご多分に漏れず、ゴルフ会員権を

の良い思い出に感謝。

第 4 章 【堅谷政男・ご家族へのインタビュー】

ております。 本章では、2022年8月6日に堅谷家で行われたインタビュー内容を取りまとめ 本書の編集担当者である方山が、ご本人やご家族の方それぞれからうか

がったお話を収めました。

たい言葉などを中心にお話し頂いております。家族愛と感謝に満ちたお話をどうぞご られたのが、とても印象的でした。ご家族の皆さんには、思い出のエピソードや伝え 堅谷家の皆さんはご家族の仲が大変良く、インタビュー中も皆さん笑顔で語ってお

下さい。

「堅谷政男さんへのインタビュー」

●自分の実力を知る・東京で学ぶ

方山 では、インタビューを始めさせていただきます。よろしくお願いします。

政男 方山 早速なんですが、堅谷さんは若い頃からずーっと大工さんじゃないですか。 よろしくお願いします。

方山 政男 はい。 たとえば途中でですね、 何か違う仕事に就こうとか、考えられたりしたことは

あったのでしょうか?

政男 なかったね。 若いときは考えたことがあったかも分かんないけど、(大工以外に)なる気は

方山

なる気はなかった?

がこうだ、これくらいだから満足しなきゃいけないんだ、みたいなことがあってです が分かってくるんだね。「俺の能力もこの程度」だと。何て言うのかな、 政男 ええ、気はなかった。やっぱり仕事をしてると、だんだん自分の能力というの 自分の実力

ね。だから、あんまりあっちこっちやってみようという気はなかったね。

方山 ええ

政男 数を積んでくると、その世界のことも分かってくるし、やっぱりそんなに甘くないと。 ただ、最初のうちはありました。大工になりたての頃はね。けど、だんだん年

だからそれ以降はあまり考えなかったね。

政男 方山 りました。 でなし、能力が不足しているんだと感じました。仕事を通じて、つくづくそれは分か たんだなぁと。なかなか、みんなと一緒に仕事をしていても、同じようにできるわけ そうですね、大体そんな感じです。能力の甘さっていうのかな、見方がね甘かっ じゃあ、 大工の見習い期間中にそういう気持ちになったということですかね?

方山

そうですか。でも、「自分を語る」を拝見していると、東京へは行きたかった

んですよね?

政男 そうです、そうです。

方山 政男 憧れというか、 じゃあ、東京に行くことに何か憧れみたいなものはあったのでしょうか? 何よりも勉強したかったということでしょうかね。

方山 勉強ですか。

政男 うん、まぁ勉強だね。当初は学校へ行くことが目的だったんだけど、そのうち

それが目的になったわけだよね

もっと広い意味で、 勉強をしたかったと?

東京自体っていうのかな、

方山

政男 そうそう、そういうことだったんだよね。

方山 僕も18のときに大学に行くために上京してまして、何かやっぱり自分を試し

てみたいという気持ちがあってお話をうかがっておりました。

政男 になると、学校に行きながらという場合そうたくさんあるもんじゃないから。 東京に出てきて、まず住むところ。生活を維持するために職業を探すってこと

方山

そうですね

201

政男 うん、だから新聞配達の仕事に就くことになっちゃったんです。

方山 分かります。僕も20歳ぐらいのときに浅草で新聞配達をしていたので

新聞配達はどれくらい続けられていたんですか?

政男 1年ちょっといたね。

誠 お父さんも、記憶がしっかりしているよね。 書いていること(「自分を語る」)

とズレてることがないよね。

方山 なんか、特に若いときのことのほうが、ハッキリと憶えていますよね。むしろ、

最近のことのほうが忘れやすい。

政男 本当にそうなんですよね。

●3人の子どもたちについて

方山 分を語る」のところで、長男の誠さんについては書かれているのですが、2人の娘さ ちょっと話題を変えて、お子さんたちについてお尋ねしたいと思います。「自 久美子

方山

誠

父さん、憶えある?

ん(久美子さん・智巳さん)たちのエピソードが少ないなって思って。

政男 ええ。

方山 名前の由来とかって、やっぱりその時の心境を結構反映していると思うのです

が、そのあたりのお話をお聞かせください。

誠

生まれた順番は、 姉(久美子)・私(誠)・妹(智巳)ですね。久美子は結婚し

政男 丸1年だね。

て何年で生まれた?

1 年?

誠 最初のまだボロアパートのときでしょ。 四畳半の。

意えてる? ・ 姉ちゃん、 聞いたことある? 久美子さんのお名前の由来とかはどうでしょうか。

誠 憶えてる? 姉ちゃん、聞いたことある?

聞いたことはある。なんか、その時に読んでいた本に出てきたとか。

政男 いや、ちょっとよく憶えてないや(笑)。

敦子 でも、そんな悩まないで決めちゃったね。 久美子はね。 一番悩んで決めたのは、

智巳よね。お父さん、一生懸命あちこち調べてね。

政男 次女の場合は、八卦じゃないけど。

方山 姓名診断とか?

政男 そうそう、一応考えて付けたつもりだけど、つもりじゃないね

●若い方に向けた仕事のメッセージ

年齢の方が大工になりたいって言ったときに、何か伝えておきたいこととかあります やっていこうという若い方も当然おられると思います。たとえば、お孫さんくらいの 方山 少しまた仕事の話についてお聞きしたいのですが、これから大工を目指して

政男 やれよ」とか、「こういうことをしちゃいかん」とか色々と制約をつけるんだけど。 そうだね、一般的に言われていることなんだけど……、 昔で言えば「真面目に

方山 ええ。

か?

いうわけにはいかないけど。

政男

いうか、 だよね。制約というか、細かいことで色々と縛らなくてもいいかなと。「自主性」と 政男 今はもう、そういう制約はほとんどつけなくていいんじゃないかなって思うん 基本だけ教えてあとはその人に任せるみたいなやり方でもいいんじゃないか

方山 政男 うん、 性格も一人ひとり違いますからね。 私は今そう思っているんですよ。昔ね、見習いを3人ほど置いたことが

と。

方山 あったわけ。 は でも、どういう風に動かしていいか分かんなくて、困ったことがあった。

だから、自主性に任せるべきなんじゃないかと。もちろん、最初から自主性と

方山 が教える側としては、やっぱり大事なのでしょうね。 たいんです」といったこともあると思うので、それを受け入れてあげる雰囲気づくり そうですね、基本が身につけば、若いは若いなりに「工夫したい、こうしてみ

政男という名前の由来

お父さんは堅谷家の長男の長男だもんね。

誠

政男 うん。

政男さんのお父さんが、

誠

政男 そう。 「誠太郎」?

政男 「誠之丞」。 誠

おじいちゃんは?

だから、「誠」って付けたの?

誠

政男 まぁ、それもあるんじゃないかな。家系図の中に、「誠」という字がたくさんあっ

てね。

政男 誠 うん、政治家になってほしかったそうなんだ。 でも、お父さんは「政男」なんだよね。

由来は?

名付けたのはおじいちゃん(誠之丞)?

誠

206

敦子

誠 政男 まぁ、ほとんど政治家になったものかもしれないね。こうやって、本を1冊残 そう。亡くなった弟が . 「誠蔵

してさ。

政男 そうかもしれないね (笑)。

子どもの教育を振り返って

たかというと、失敗でもなかった。 政男 子どもの教育に関しては成功ではなかったんだけど、そうかといって失敗だっ

せてね。智巳もね。智巳のおかげで勉強もするようになったしね。 好きなところに行かせてね、誠も「私立の中学に行きたい」って言ったら行か

政男 そうだね、智巳のおかげで教育に力を入れなきゃいけないなって思うように

敦子 なった。 刺激されたのよね?

207

智巳 いって。それから、定時制の学校に行って自由に勉強して働きたいって言ったら、そ お父さんは言ってたよね。私が学校行きたくないって言ったら、行かなくてい

うすればいいじゃんってな感じで言ってくれたんだよ。

政男 あんまり、こだわってなかったんだよ。

ちょっと劣等感みたいなのがあったのかもしれないね。 になったり、いじめがあったりとかで。父さんも、自分が中卒のままでいることに 誠 智巳が中学時代に一番子育てで苦労したというか、悩んだんだよね。 登校拒否

政男 それはあった。

誠 でさ、トランペットを始めようとしたんだよね。

政男 うん。

音が出なくて、靴下が。その時も、こうやってみんなで腹抱えて笑って。そういうこ 吹こうとしたら、中から靴下が出てきて(笑)。「みんな、聞け」って言っているのに 誠 で、ある時トランペットを吹こうとしたら全然音が出なくて、「フーッ」って

ともあったよね。

「必要な言葉を必要なタイミングでくれる人」 会田 - 久美子 (長女)

後から父が書いているものを見ると、泣いて済まされる場面・場合じゃないというこ とがずっと続いていたことを知りました。父は自分の体験から、この言葉が出たんだ ら、「泣けるうちはいいんだぞ」って言われて、その時はそうなんだと思いました。 もその職場がきついところだったんです。父に「もう行きたくない」と泣いて伝えた と読んだものを通じて感じました。 私が社会人になるぐらいの頃、洋服を販売する仕事をしていたのですが、どうして

すが。 みたいにすごい忍耐強いほうではないので1年ちょっとくらいで辞めてしまったんで 遅く帰ってこい」と言われたんですよね(笑)。結局、その職場もきつくて、私は父 ただ、 就職をしたときに父から言われたことは、「誰よりも早く行って、誰よりも 自分自身が実践してきた人だったからこそ、こういう言葉を言えたのだ

そして、私がちょっと年齢が上がってきた頃は逆に、「そんなきついところは辞め

第4章 【堅谷政男・ご家族へのインタビュー】

存在。 て曲げずに同じことを言い続けるのではなく、私の状況に合った言葉を伝えてくれる な言葉を、必要なタイミングでくれる人だなっていう思いがしていますね。がんとし げて帰ってこい」っていう風に言ってくれるようになったんです。父はその時に必要 うが大事になったんだぞ。だから、そんなに遅くまでがんばり過ぎずに、早く切り上 てもいい」という言葉をもらったりしました。結婚してからは「仕事よりも、夫のほ ありがたい存在だと感じています。

「暗闇で待っていたお父さん」 堅谷 智巳(ともみ・次女)

けど、 さを緩和してくれていたというか(笑)。 れていたのが印象に残っています。心配してくれている気持ちは伝わってくるんです 間が遅いんですけど、いつも父が猫と道路の真ん中で腕組みしながら暗闇で待ってく 父との思い出は、私が定時制高校に通っていた頃のことです。学校から帰宅する時 暗闇のなか仁王立ちで待っているのが怖かったですね。猫のかわいさが父の怖

小学校2・3年生の頃だったと思います。人生で一番感動したと言っていいくらい、 んぶしてもらって保健室に連れていかれました。あれはとても感動しました。 忙しいのに、運動会を見に来てくれていたんです。すぐに吹っ飛んできてくれて、 る状態を見て、友だちが父を呼びに行ってくれたことがあって。その時は普段仕事が 裏で遊んでいたら、溝のフタで足を切ってしまったことがあったんです。 私にとってちょっと怖い存在の父だったんですけど、運動会のときに私が体育館の 流血してい たしか

良い思い出として残っていますね。

「今ある目標を目指して」 堅谷 光(ひかり・孫)

んなことを言われたのは本当に初めてで、すごいなって。 んに言ったら、「そこが一番いい、神様が一緒にいるから」と言ってくれました。そ 去年の1月くらいに現場実習である会社に行ってました。そのことを母がおじいちゃ そこから名付けてもらいました。自分は今、特別支援学校に通っているんですけど、 堅谷光と申します。(名前の由来は)聖書の中に「世の光」という言葉があって、

そこを目指していきたいと思っています。 そうな感じなので、それをまず果たしたいなって。それと、障がい者のフットサルの 自分、カフェで働きたいというのがあって、もうすぐ社内カフェで働かせていただけ 日本代表を目指していて、その目標に向けて頑張りたいなと。可能性があるかぎり、 あと、学校でお菓子作りを習ってて、家では本当にたまにしか作らないんですけど。

「おじいちゃんとけん玉」 堅谷 恵音(けいん・孫)

ような遊び方をしていました。あとは病院内を走り回っていると、おじいちゃんが付 けん玉といっても、ゆらゆらと垂らされた玉をつかもうとするような、猫がじゃれる から、ハッキリっと覚えているわけではないんですけど、けん玉で遊んでいました。 ちょっと時間があって、一緒に遊んだりしていました。僕もめちゃくちゃ小さかった ていて、僕とお母さんがギターで、お兄ちゃんがドラムでお父さんがベースです。 奏でる子であってほしい」という願いが込められているそうです。家族でバンドもやっ いてきてくれたり。たくさんの思い出がいっぱいあります。 くやる家族なんで、『アメイジング・グレイス』という曲が名前の由来です。「恵みを 堅谷恵音です。「恵み」に「音」と書きます、両親が付けてくれました。音楽をよ おじいちゃんとの思い出は、お兄ちゃんを学校・病院に連れて行っているときに

な

い不器用な父のことを。

「ありがとうの人」 堅谷 誠(長男)

工の棟梁であり、 と従業員を守り、 子供は二の次。今ならもちろん理解できます。必死で家庭を守り、子供を守り、会社 れていないと感じていた若き日の私でした。父親はとにかく昔から仕事三昧。家庭、 育ててもらい、大した苦労もせず恵まれていたはずなのに、 自分自身を父親に理解されていないと感じ、常に腹を立てていました。何不自由なく 父の日。祈りの中で初めて、父との和解を果たすことができました。それまで私は、 ら長い間、 私の25歳の誕生日の前日、 愛を十分に受けずに育ち、子供に対してどのように愛情を与えていいのか分から 親元には寄りつきませんでした。数年後、遠い異国の地で迎えたある年の 社長でした。 仲間と共にお客様のために誠実な仕事をやり遂げていく、立派な大 両親と口げんかをしたついでに家を飛び出し、それか しかし若き日の私はそんな父を理解していませんでし 理解されていない、 愛さ

祈りの中で示されたのは、暗く寂しい孤独な政男少年を優しく見守る「神の目」、「主

神の愛のまなざしに初めて気づかされました。そして私は神の思いを知りました。 ることなく育ち、ひねくれても不思議ではない生い立ち。そんな政男少年を見つめる たあの時も、嬉しかったあの時も、ずっとずっとそばにいて支えていた、守っていた、 る政男少年をそっと見守り、涙して守ってくださった方がいる。悔しくてたまらなかっ 引き離され、ただ一人生家に残された幼子。まっ暗な田舎の夜道、母を探して歩き回 の瞳」でした。弟をあっという間に失い、父親と早くに死に別れ、幼いうちに母親と 緒に泣いて、 一緒に笑ってくれていた。父はひとりではなかった。愛を十分に感じ

「誠よ、 私は君の父親のすべてを知っている。私の愛で永遠に守る」

れ、守られている。神様の父親への愛を知ってからは、父親との関係が変わり、父を 父は生まれる前から今に至るまで、さらにこの先も永遠に、神に知られ、深く愛さ

理解するようになりました。

と。

る」「お礼も感謝も言い足りない」「もっと書いておきたいことがあれもこれもあった」 は毎日「ありがとう」を何回も言います。執筆中にも「お世話になった人はもっとい を見事に言い当ててくださったような素晴らしいひらめきに感動しました。最近の父 「感謝満遍」。編集者の方山氏からこの本のタイトル案を提示していただき、父自身

なに幸せでいいのかなぁ」と父はよく言います。そしてさらに、「みんな、ありがとう」 次から次へと新しい出会いが生まれ、父の人生はこんなに豊かになりました。「こん 我が父・堅谷政男の人生は神の愛と恵みに満ち溢れています。出会う人、出会う人、

と、自身の言葉や表現力の足りなさを嘆いていました。

るでしょう。わたしはいつまでも主の家に住まいましょう。 まことに、 わたしのいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、わたしを追って来

聖書詩篇23篇6節(新改訳)

「敦子の手記」 堅谷 敦子 (妻)

た。姉、 昭和40年夏、姉(長女)とその夫(義兄)の紹介で堅谷政男さんとお見合いをし 義兄を信頼して、その年の11月3日に栃木教会にて婚約式を挙げた。

姉の家にあったオルガンを、政男さんがトラックで運んでくれたことを今は懐かしく 翌年、 昭和41年1月26日、東京都北区の滝野川会館で結婚式を挙げた。 田端の

幸せに暮らしている。結婚して56年経つが、よく病気もせず頑張ってくれたと感謝 しています。 仕事一筋。私も夢中でついてきた。三人の子供は健康に育ち、今はそれぞれ元気に、

)政男のある日ある時④ ~すべての方々に感謝~

(2016年2月16日)

それは物(お金)でしかないのではないか? 分に困り何時間も立ちつくしてしまうことがあり悲しくもあった。 たような気がする。仕事一点張りの人生で得られるものは一体何であったろうか、 ら仕事に追われ自分自身の大切さというもの、家庭、家族の生活も犠牲にしてき くなった。馬車馬のように、仕事、仕事の一点張りで、自分の無能無才なため人 よいよ現役の最後仕事場の片付けをしながら道具の始末、懐かしい道具の数々処 の何倍もの努力が必要であったこと、そのため自分自身の心の余裕もなくひたす 片付けながら、自分の仕事人生も次から次へと思い出されて座ったまま動けな 51年間続けた事業廃業のご挨拶状を各位に送付したのが2016年2月、い

なかったであろう。特に建築の仕事は沢山の業種の織りなすオーケストラのよう 顧客の支持も得られなかったと思いに達したことを覚えています。頂いたご支援、 なそれぞれの技の結集、共調、支援、がなければ決していい家はできなかったし、 たくさんの犠牲、たくさんの支援なしにはこの事業を無事に終えることはでき

げたい、と思った瞬間でした。ありがとうございます。

すべての方々に感謝を申し上げたい。そして残りの人生をそのすべての方々に捧

●おわりに

から、そんなありがたい出会いの数々を語らずに黙ってこの世を去って行くことが出 んな人と出会って、助けたり助けられたりしてやってこれたんだ」そんな思いがある ではここまで出来なかった。本当にありがたいことにいろんなことに恵まれて、いろ かし、「俺、一生懸命頑張った。よく頑張ったと自分を褒めてやりたい。でも、一人 方で「自分が生きてきた証を残したい」というのは一見矛盾のようにも思えます。 事としたのは、父なりの強い思いがあったようです。自己顕示欲がないとはいえ、 自己顕示欲のない父が、この自分史の完成をライフワークとして、人生最後の大仕

いけれども、辛さ・苦しさ・寂しさ・笑い・喜び・涙、小さくて温かい感動にあふれ の世を去って行きたいのだと思います。映画やドラマになるような劇的な出来事はな それは出会いと感謝に尽きます。「ありがとう」を人と世の中にしっかり伝えて、こ 来ないんじゃないか、そう思います。 「俺の実績を残したい」なんていう考えは全くない。父の「自分が生きてきた証」。

た父の人生です。

謝満遍』であります。小さな本ですが、読んでくださるあなたにとって、心地よい住 心を込め、一棟一棟の住まいを建ててきた(有)堅谷工務店。 最後の一棟はこの本『感

まいのような一冊になりますように。

- 安らかな父の最期 -

心したようでした。そしてその日は、私たちの、父を囲んだ最後の家族団らんの日と けました。8月6日、打ち合わせを終え、すべてを方山さんに預けると、すっかり安 最終打ち合わせを済ませないと入院しない」と、人生最後の大仕事に文字通り命を賭 8月の上旬、至急の入院を医師に勧められましたが、父は「方山さんとの自分史の

入院は8月8日。もうすでに歩くことが出来なくなっていた父を、大変な思いをし

なりました。

迎えられ、 て介護タクシーに乗り込ませ病院へ。病院へ着くと馴染みの看護師の方々に温かく出 我が家に帰ってきたような満面の笑み。 相当弱っているはずなのにと、

親が呆れて笑ってしまう光景だったようです。

八潮中央総合病院緩和ケアの皆様には心より感謝いたします。 みならず自分史制作への勇気を多大にいただいていました。主治医の藤城先生はじめ、 父は最期の時まで心から安心していられました。緩和ケアの皆様からは、医療行為の する処置を適切にしていただき、苦しいながらも穏やかに過ごさせていただきました。 週刊誌の差し入れを願うほど。それでも日に日に弱っていき、増してくる痛みを緩和 入院して最初のうちは私に電話をかけてくるくらいの元気があり、面会時に新聞と

行きました。信じられないほど純朴で真っ直ぐな人でした。神と人と仕事とに愛され、 一生懸命に精一杯誠実に生き抜いた86年にわたる、実に見事な父の人生でありまし 入院から2週間、2022年8月22日、眠るように安らかに、父は天へと帰って

た。

これまで父・堅谷政男に関わってくださった皆様、まことにまことにありがとうござ た。9月11日日曜日、爽やかな風に包まれた午後、家族により納骨をいたしました。 8月25日木曜日、自宅にて家族のみで葬儀を執り行い、同日に火葬も済ませまし

本書出版にご尽力いただいた、オーズの方山敏彦様に心より感謝申し上げます。

いました。父の思い「ありがとう」をこの本に込めてお届けします。

2022年9月 堅谷 誠

【編集後記】 編集者 方山 敏彦(オーズ合同会社)

月例会の場でした。堅谷さんと同じく、野口会長の本を読んで会に興味を持ち、入会 私が堅谷政男さんと初めてお会いしたのは、文中でも紹介されている「八起会」の

してから早5年が経とうとしています。

をうかがっておりました。 をしたり、 憶しており、毎月の月例会の場でお会いしたときには、健康維持のためウォーキング 最初にお会いしたときの堅谷さんは、すでに堅谷工務店を閉じられていた頃だと記 お孫さんの計算ドリルなどを解いては認知症予防に努めていたりするお話

方がおり、 感のようなものを抱いていたのかもしれません。 話できた何気ない日常が今ではなつかしく感じます。 きた堅谷さんはちょっと大きな存在に思えましたが、私も気後れせずにいろいろとお 当時、30代前半だった私にとって、長年にわたり大工仕事や会社経営に携わって 私自身も会社経営を行っていますので、堅谷さんには初めからどこか親近 私の母方の親戚にも大工だった

ら人生において大切なもの、大切にしなければならないものが何かを教えてくださる みを感じさせてくれるお人柄でした。八起会の大先輩として、まさに存在そのものか どをすると、とても丁寧に誠実に話をしてくださり、真面目さのなかにもどこか親し 堅谷さんは自ら積極的に話をするタイプではありませんでしたが、こちらが質問な

だ驚いておりました。しかし、私も一介の編集者であり、小さいながらも出版社を経 出版に携わることになるとは思いもせず、最初にご相談をいただいたときは、ただた は存じていましたが、よもや私がそれらを取りまとめて今回の『感謝満遍』の編集・ いただくこととなりました。堅谷さんが以前から『かたや通信』を発行されていたの さんのご友人でもある塩原勝美さんから、「自分史制作」の件で今回ご紹介・ご推薦 た。しかし、ご縁というのは不思議なもので、同じく八起会に所属しておられ、堅谷 の開催であるため、堅谷さんとはそれからなかなかお会いする機会が持てませんでし 2020年からは現在も続くコロナ禍の状態となり、八起会の月例会もリモートで

営している身ですので、ご要望があれば断るわけにはまいりません。そうして、この

本の制作がスタートいたしました。

の皆さんのご協力もあり、このたび『感謝満遍』をこうして皆さまにお届けすること られた時間のなかで進めていく形となりましたが、ご長男の誠さん、堅谷家のご家族 2022年に入ってから、堅谷さん自身の体調が思わしくなく、自分史の制作は限

ができ、とても嬉しく感じております。

見すると飾り気のない素朴な言葉ですが、そこには「あなたと出会えて嬉しい」と とう」を言葉で伝えてくださる方であり、堅谷家の皆さんも自然と「ありがとう」と 私が一人で見に行ったときに閃いたものです。堅谷さんはお会いするたびに「ありが いう言葉を大事になさっているのが、私の印象としてありました。「ありがとう」、一 タイトルの 『感謝満遍』は、堅谷さんが棟梁として初めてご活躍された小嶋邸を、

とつに改めて目を通し、ご本人やご家族からお話をうかがうなかで、このタイトル

いう気持ちが常に伴っています。本書を編集するにあたり、『かたや通信』の一つひ

しての誇りであります。長い間大変おつかれさまでした、そしてたくさんの「ありが の大仕事でした。私も編集者という立場でこの大仕事にご一緒できたこと、 ……」、本書『感謝満遍』は「ありがとう」がたくさん詰まった堅谷政男さんの最後 しても足りない。この人にも、あの人にもお世話になった。ありがとう、ありがとう にたどり着けたことに、私自身も深い感謝の念を抱いております。「どれだけ感謝を とう」を教えていただき、こちらこそ有難うございました。 職業人と

る人、 きっと、その方も「ありがとう」と返してくれるはずです。 間、あなたのことを気づかってくれる方……へ、「ありがとう」と伝えてみましょう。 せん。ですので、この本を手に取られた皆さんもどうぞ、いつも身近で見守ってくれ み過ぎてしまったので、この本だけでは「ありがとう」の言葉がとても収まり切れま お世話になったあの人、久しぶりに会う友人、仕事や勉強を一緒にしている仲 『感謝満遍』は、堅谷さんやご家族の皆さんと一緒に「ありがとう」を詰め込

最後までお読みいただきありがとうございます。本書を通じて皆さまと出会えたこ

という言葉は、いつの時代も変わりません。自分と相手を結わえるこの素敵な言葉を とを深く感謝申し上げます。時代は幾重にも変わっていくものですが、「ありがとう」

2022(令和4)年8月のとある晴れた日

これからも大切にしていきたいものですね。

そうです今日は、「ありがとうの日」

ありがとうの人

発行日————	-●2022(令和4)年9月30日
著者———	-●堅谷 政男
協力————	-●堅谷 誠、ご家族の皆さま
編集者	-●方山 敏彦
編集補佐———	-●藤原 誠
発行所————	−●オーズ合同会社
	〒150-0002

東京都渋谷区渋谷3-6-2 エクラート渋谷ビル4F E-mail: web@oth. sakura. ne. jp

Printed in Japan © OTH LLC

落丁・乱丁本は送料当社負担にて、お取り替えいたします。本書の無断複製 (コピー・スキャン・デジタル化など) は著作権法の例外を除き、法律で 禁じられております。私的利用を目的とする場合でも、代行業者の第三者に 依頼してスキャンやデジタル化することは認められておりません。